

先進の道路サービスへ

阪神高速グループ  
中期経営計画(2023~2025)

2023年4月

 阪神高速道路株式会社

# CONTENTS

トップメッセージ .....	2
中期経営計画の位置づけ .....	3
前中期経営計画(2020～2022)の総括(重点施策と関連事業) .....	4
阪神高速を取り巻く主な経営環境と中期経営計画(2023～2025)における取組 .....	5
1. 最高の安全と安心を提供する阪神高速 .....	6
2. もっと便利で快適なドライブライフを実現する阪神高速 .....	11
3. 世界水準の卓越した都市高速道路技術で発展する阪神高速 .....	17
4. お客さまや社会に満足をお届けする多彩なビジネスを展開する阪神高速 .....	23
5. 関西の発展に貢献し、地域・社会から愛され信頼される阪神高速 .....	26
6. 経営基盤を確立し、グループ社員がやりがいを実感できる阪神高速 .....	31
大阪・関西万博に貢献し、未来社会を描く阪神高速 .....	34
【参考】阪神高速グループのサステナビリティへの基本姿勢について .....	39
【参考】阪神高速グループのサステナビリティ重要課題について .....	40
【参考】DX戦略の概要 .....	41
【参考】技術戦略の概要 .....	42
【参考】環境ポリシー・環境行動計画の概要 .....	43

## 先進の道路サービスへ

# トップメッセージ



阪神高速道路は、258.1kmのネットワークを有する関西都市圏の大動脈として、関西のくらしや経済の発展を支えています。

阪神高速グループは、グループ理念として「先進の道路サービスへ」を掲げ、安全・安心・快適なネットワークを通じてお客さまの満足を実現し、関西のくらしや経済の発展に貢献するため、ネットワーク整備、道路の維持管理、お客さま満足向上、DXや働き方改革の推進等、様々な施策に取り組んでいます。

また、持続可能な社会の実現に貢献するべく、SDGsを羅針盤として事業活動を行っています。

前中期経営計画(2020~2022)期間においては、2030年のありたい姿を示した「阪神高速グループビジョン2030」の実現に向け、新型コロナウイルス感染症が拡大する状況下においても、最高の安全と安心に向けた喜連瓜破大規模更新工事や環状線リニューアル工事等のリニューアルプロジェクト、災害対応力の強化に向けた入口遠隔閉鎖装置の整備、淀川左岸線2期や淀川左岸線延伸部、大阪湾岸道路西伸部のネットワーク整備事業の推進、お客さま満足向上に向けた交通安全対策や新たなPAの整備等を推進してまいりました。

近年、環境・社会課題がグローバルに拡大し、社会全体で課題を解決することが求められています。そのような現代社会において、阪神高速グループは、持続可能な社会の実現に貢献し、自らも持続的に進化・成長することをめざします。そのためには、老朽化した高速道路に手をを入れて持続可能にする「サステナブル」、ネットワークで関西の個性的で多様な都市を一つにつなぐ「インクルーシブ」、災害があっても速やかに立ち直って緊急輸送道路として機能する「レジリエント」をキーワードに、社員一人ひとりがこれらのことを常に意識し、着実に取り組んでいく必要があります。

また、気候変動対策・脱炭素化に向けた社会的要請、デジタル技術の急速な発展に伴うDX推進の必要性、ウィズコロナ・ポストコロナといった社会の変化に加え、働き方改革や人権・多様性の尊重、ステークホルダーの信頼向上等の課題に対応していかなければなりません。

加えて、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマとし、未来社会の実験場ともいわれる2025年大阪・関西万博への積極的な貢献が求められています。

阪神高速グループを取り巻くこれらの経営環境を踏まえ、今般、「中期経営計画(2023~2025)」を策定いたしました。

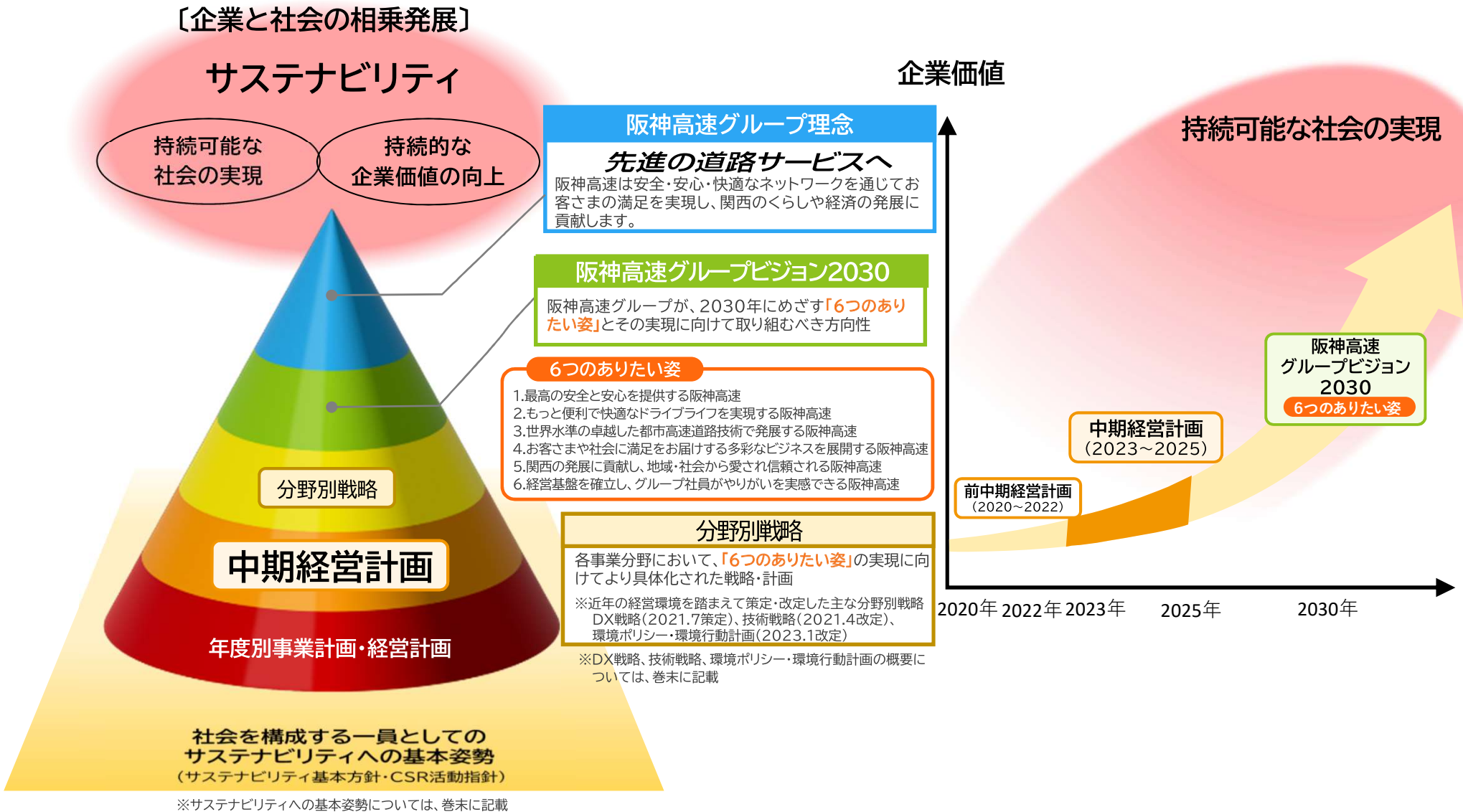
本計画は、ビジョン2030の6つのありたい姿の実現に向けた計画であるとともに、阪神高速グループが大阪・関西万博に貢献し未来社会を描くためのアクションプランとして、DXや、2050年のカーボンニュートラルをめざしたGXを推進する取組を含め、3年間に取り組む具体的な施策を計画したものです。

今後とも、社会を構成する一員としてのサステナビリティへの基本姿勢を経営の基盤とし、地域や他の事業者と広く連携しながら、関西の発展に貢献し、地域・社会から愛され信頼される阪神高速グループとなるよう、グループ一丸となって、本計画を推し進めてまいります。

阪神高速道路株式会社  
代表取締役社長  
吉田 光市

# 中期経営計画の位置づけ

阪神高速グループは、社会を構成する一員としてサステナビリティを共通の価値観と認識し、阪神高速グループ理念と阪神高速グループビジョン2030を実現するために、分野別戦略を踏まえ、2023～2025年度の3カ年に取り組むべき具体的な計画として、中期経営計画を策定しました。



# 前中期経営計画（2020～2022）の総括（重点施策と関連事業）

前中期経営計画は、構造物の老朽化や自然災害の激甚化、関西の成長に向けたネットワーク整備への期待と大阪・関西万博の決定、高速道路における交通安全上の課題の顕在化等の経営環境を踏まえて策定しました。

計画期間中、新型コロナウイルス感染症が拡大する状況下においても、重点施策であるリニューアルプロジェクト、災害対応力の強化、ネットワーク整備の推進、お客さま満足の向上を中心に、グループ一丸となって取り組んできました。

関連事業においては、一層の事業規模拡大に向けて事業を展開した結果、営業収益、営業利益ともに目標を達成する見込みです。

- ・喜連瓜破大規模更新工事の開始
- ・各年度において、リニューアル工事を実施
- ・計画した料金所における入口遠隔閉鎖装置の整備を推進



入口遠隔閉鎖装置の整備



喜連瓜破大規模更新工事の開始広報



橋梁架設工事



トンネル函体工事

【最高の安全と安心】  
リニューアルプロジェクト  
災害対応力の強化



【多彩なビジネス】  
関連事業の展開



- ・大阪港咲洲TN等の維持管理等を受託
- ・なにわ筋線事業等における用地補償コンサルティングを受託
- ・JICA等発注の案件を継続的に受注

関連事業 (2022年度)	目標	実績 見込み
営業収益 (連結)	58	58
営業利益 (連結)	8.5	8.5

単位:億円

## 重点施策

【もっと便利で快適】  
【関西の発展に貢献】  
ネットワーク整備の推進



- ・淀川左岸線2期・延伸部や大阪湾岸道路西伸部の事業進捗に向け、技術検討や用地取得、並びに橋梁や開削トンネル工事等を着実に推進
- ・新たな材料や構造等のほか、将来の効率的な維持管理も見据えた先進的な技術の適用に向け検討を推進

【最高の安全と安心】  
【もっと便利で快適】  
お客さま満足の向上



視認性の高い看板への取替

高輝度矢印板追加

逆走・誤進入対策



泉大津大型専用PAの整備

- ・看板設置等の標準的な逆走・誤進入対策を完了
- ・高石、泉大津(大型専用)にPAを整備
- ・関係機関と自動運転に向けた合流支援、先読み情報提供等に係る共同研究を継続して実施

# 阪神高速を取り巻く主な経営環境と中期経営計画（2023～2025）における取組

## 主な経営環境

気候変動対策・脱炭素化に向けた社会的要請
激甚化・頻発化する自然災害
ウィズコロナ・ポストコロナ
構造物の老朽化
ネットワーク機能強化への期待
交通安全意識の高まり
DX推進の必要性 Society5.0の提起
大阪・関西万博の開催
働き方改革
人権・多様性の尊重
ステークホルダーの信頼向上

## ● 阪神高速グループビジョン2030の6つのありたい姿と大阪・関西万博に向けた取組（詳細は次ページ以降に記載）

### 1. 最高の安全と安心を提供する阪神高速

- リニューアルプロジェクトの着実な推進
- 災害に強い阪神高速
- 交通安全対策・良好な走行環境の確保
- より合理的で効率的な維持管理の実施

### 2. もっと便利で快適なドライブライフを実現する阪神高速

- ネットワーク整備の推進
- 新しい技術を活用した渋滞対策の推進
- ETC専用化の推進
- お客さまにわかりやすい情報提供と新たなサービスの展開
- パーキングエリアの快適性・利便性の向上

### 3. 世界水準の卓越した都市高速道路技術で発展する阪神高速

- 大規模プロジェクト等のハード技術の開発
- シームレスで高度なインフラマネジメントの推進
- 将来を見据えた新たな技術の開発
- パーソナライズされた安全・安心・快適なモビリティサービスの実現
- 卓越した技術力・ノウハウの強化

### 4. お客さまや社会に満足をお届けする 多彩なビジネスを展開する阪神高速

- 関西の発展に向けた多彩な事業の展開
- 国際事業の推進

### 5. 関西の発展に貢献し、 地域・社会から愛され信頼される阪神高速

- 社会経済活動の活性化や都市構造の強靭化
- 環境経営推進・脱炭素社会への挑戦
- 地域との連携・地域社会の活性化
- 社会貢献活動

### 6. 経営基盤を確立し、グループ社員がやりがい 実感できる阪神高速

- ステークホルダーの声を反映した経営と信頼性の向上
- 働きがいを実感できる働き方改革・ダイバーシティ&インクルージョンの推進

### 計画値 ※2023年4月時点

#### 高速道路事業

高速道路機構が保有する債務の返済に向けて、お客さまからいただく料金収入を原資として、道路資産賃借料を着実に支払います。

**【2023～2025年度累計】**

- ・料金収入 5,543億円
- ・道路資産賃借料 4,160億円

### 数値目標(財務指標)

#### 関連事業

一層の事業規模拡大に向けて関連事業の展開を図り、

**【2025年度】**

- ・営業収益(連結) 60億円
- ・営業利益率(連結) 14%をめざします。

### 大阪・関西万博に貢献し、未来社会を描く阪神高速

- 交通円滑化への貢献
- パーキングエリアでのインバウンド対応等のパーソナルサービス
- 大阪・関西万博の気運醸成につながる地域のにぎわい創出
- 新たなプロジェクトへのチャレンジによる価値の創造



# 1. 最高の安全と安心を提供する阪神高速



1号環状線リニューアル工事2021北行完了状況

# 1. 最高の安全と安心を提供する阪神高速

## (1) リニューアルプロジェクトの着実な推進



100年先も安全・安心・快適にご利用いただけるサステナブルな阪神高速道路とするため、新たな知見を取り入れながら、老朽化が進んだ構造物のリニューアルプロジェクトを推進します。

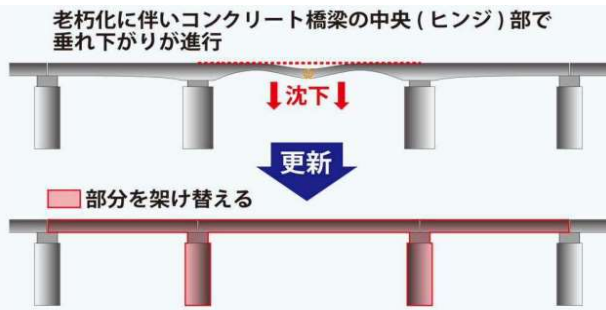
### ① 構造物の長寿命化に向けたリニューアルの着実な推進

構造物の全体的な取り替え等を行う大規模更新工事について、14号松原線喜連瓜破付近の工事を大阪・関西万博までに完了させ、15号堺線湊町付近の工事を推進します。また、3号神戸線京橋付近の工事については本格的に実施するとともに、出入口の走行安全性の向上策を検討します。

主要構造物の全体的な補修・補強を実施する大規模修繕工事について、16号大阪港線阿波座付近における縦目地撤去工事を完了させるとともに、通行止めによる集中工事を活用したSFRC(※)舗装等の工事をさらに推進します。 ※アスファルト舗装と鋼床版との間に挟む、強度の高い鋼繊維補強コンクリート

#### 大規模更新

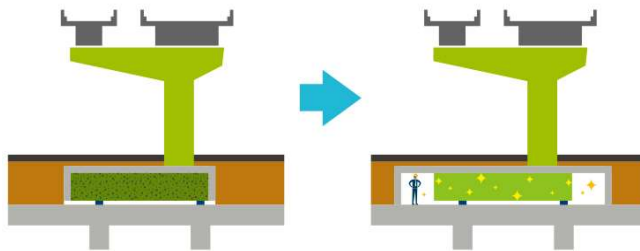
喜連瓜破 ～橋梁の架け替え～



仮設桁の設置

湊町 ～鋼製基礎の更新～

鋼製基礎に腐食対策を施すとともに、外周全面にコンクリートボックスを設置することで、耐食性の向上や地下水の浸水対策、維持管理空間を確保します。

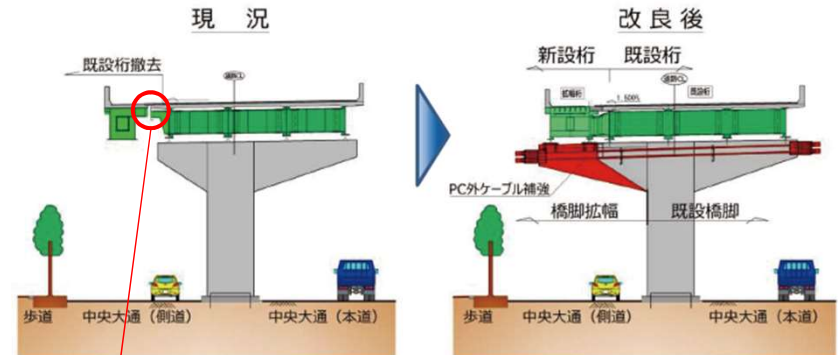


橋脚基礎付近の掘削

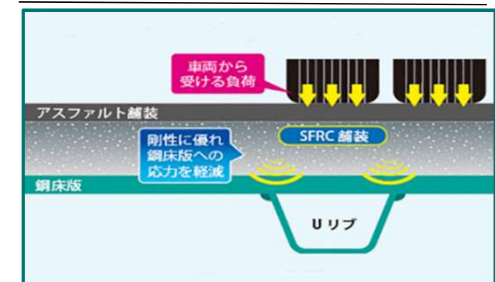
工事にあたっては、事前広報やう回案内等により、お客さまの交通影響軽減を図ります。

#### 大規模修繕

阿波座 ～縦目地の撤去～



#### SFRC舗装





# 1. 最高の安全と安心を提供する阪神高速

## (2) 災害に強い阪神高速

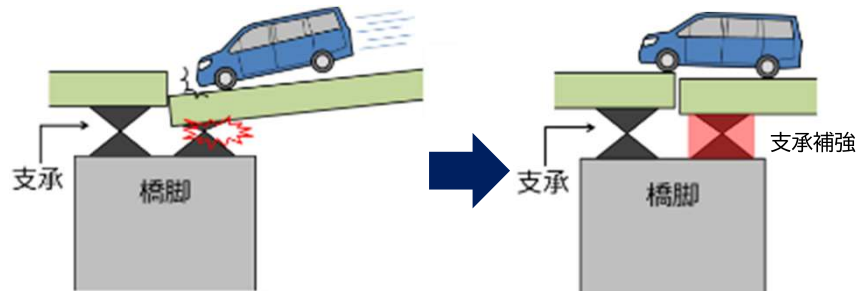


災害発生時に緊急輸送道路として機能するレジリエント(強靱)な阪神高速をめざします。

### ① 阪神高速道路の耐震性のさらなる向上

既に完了している落橋・倒壊対策としての耐震補強に加えて、大規模地震の発生後に早期に道路(緊急輸送道路)機能を確保できるよう、さらなる補強や段差防止構造の設置等の耐震対策を引き続き推進します。

※地震発生時の支承損傷による段差発生イメージ



桁かかり長の確保

落橋防止装置

### ② 災害時の復元力を高める設備の整備推進

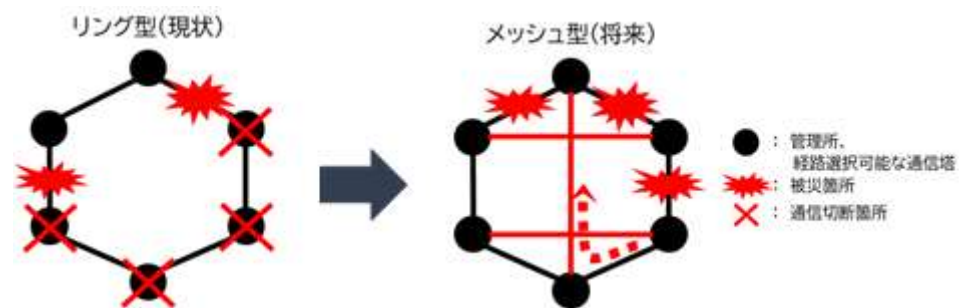
災害時に特異事象を早期検知するための交通流監視カメラの増設や、積雪時に車両の立往生を防ぐための融雪設備の整備等、災害時の復元力を高めるための施策を推進します。



交通流監視カメラ

### ③ 通信ネットワークの強靱化

災害時にも通信ネットワークの機能を維持するため、複数の経路で接続する網目状の通信ネットワークの構築を推進します。



通信ネットワーク網のメッシュ化

ありたい姿1

ありたい姿2

ありたい姿3

ありたい姿4

ありたい姿5

ありたい姿6

大阪・関西万博

# 1. 最高の安全と安心を提供する阪神高速

## (3)交通安全対策・良好な走行環境の確保

すべてのお客さまに安心してご利用いただける安全な道路を実現するため、交通安全・障害対策により交通事故、二次事故等の削減に努めます。また、ジョイント部の段差解消や雨天時でも走りやすい舗装への打換え等の対策により良好な走行環境を確保します。



### 数値目標

#### 死傷事故率

2022年度実績見込値：**14.1件**/億台km

2025年度目標値：**10.0件**/億台km



#### 快適走行路面率

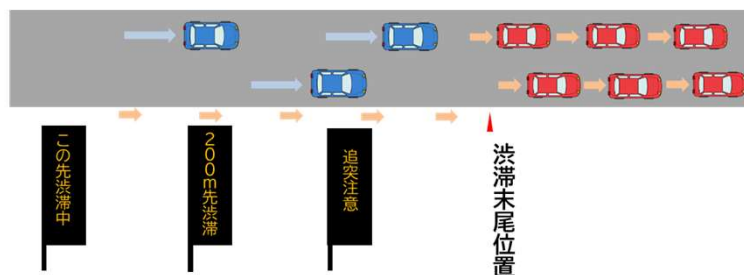
2022年度実績見込値：**97%**

2025年度目標値：**97%**



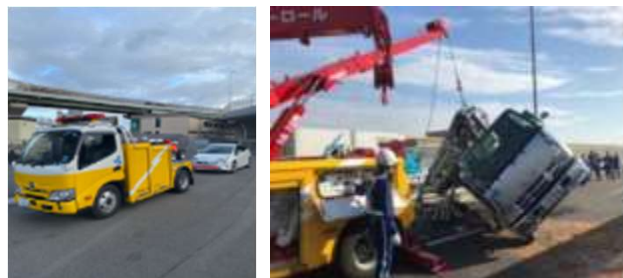
### ①交通事故の削減

事故削減に向け、これまでの案内標識やカラー舗装等の対策を継続して実施するとともに、追突事故の削減に向けて渋滞末尾情報の提供に向けた取組を進めます。



### ③迅速な交通障害対応による二次事故の防止

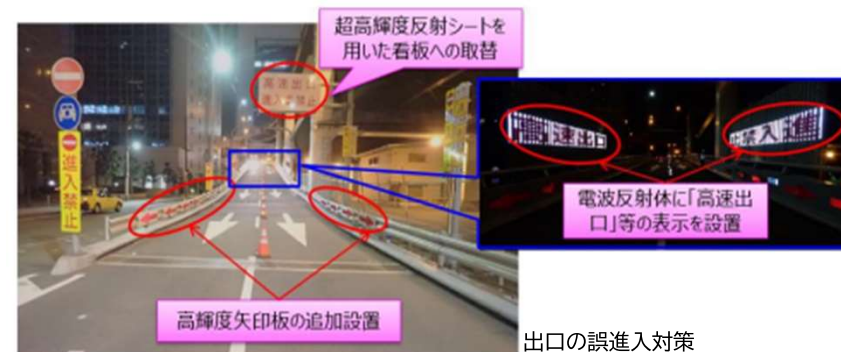
事故や故障車等の交通障害による二次事故や渋滞を削減するため、機動支援隊の活用のほか、画像認識による異常事象検知技術の開発等、事故発生～認知～現場到着～事案処理の時間の短縮に向けた取組を推進し、安心して走行できる環境を提供します。



機動支援隊(レッカー業務)の実施例

### ②逆走・誤進入の防止

高速道路での逆走・誤進入による事故をゼロにするため、出入口部や合流部においてさらなる対策を推進するほか、逆走車の検知精度の向上及び走行車両への周知の迅速化をめざします。



### ④良好な走行環境の保持

排水性舗装やすべりにくい舗装、ジョイントレス化等によって雨天時の視認性や安全性を考慮した良好な路面状態にするとともに、巡回や補修を通して路面状態の維持に努めます。

また、大阪・関西万博期間中の主要アクセスルートにおいて、万博会場へのわかりやすい案内表示や舗装、区画線、遮音壁の補修を実施します。

ありたい姿1

ありたい姿2

ありたい姿3

ありたい姿4

ありたい姿5

ありたい姿6

大阪・関西万博

# 1. 最高の安全と安心を提供する阪神高速

## (4)より合理的で効率的な維持管理の実施

お客さまに将来にわたって構造物・施設を安全、安心にご利用いただけるよう「計画～点検・診断～措置～記録」という基本サイクルに基づき、合理的かつ効率的な維持管理を実施します。



数値目標

橋梁・トンネル・附属物の点検実施率

2022年度実績見込値： **100%**

2025年度目標値： **100%**

※当該年度に実施を予定する点検対象施設数に対する実施率



### ①安全・安心を支える点検・補修の実施

- 道路メンテナンス点検を着実に実施します。
- 新技術の導入により、点検の効率化・高度化を図ります。特に、トンネル換気設備において、新しい診断技術を活用して、診断の効率化につなげます。
- より一層の工事集約を促進するとともに、開発してきた技術を活用し、補修工事の期間短縮を図ります。
- 予防保全の推進や維持管理性を向上させる取組等を構造物単位でパッケージ化して実施することで、より合理的な補修・修繕を行います。



ドクターバト2.0による路面・トンネルの点検



IH式鋼床版舗装撤去工法



乾式ワイヤーソー(水平切断機械)を用いた伸縮継手(ジョイント)撤去工法



ドローンを活用した点検の試行



ジェットファンの診断:  
ジェットファンの電流値から電動機内部の正常/異常を判定、吊り金具の異常も検出可能



照明等の柱基部  
アンカーボルト劣化判定装置等の非破壊検査技術

ありたい姿1

ありたい姿2

ありたい姿3

ありたい姿4

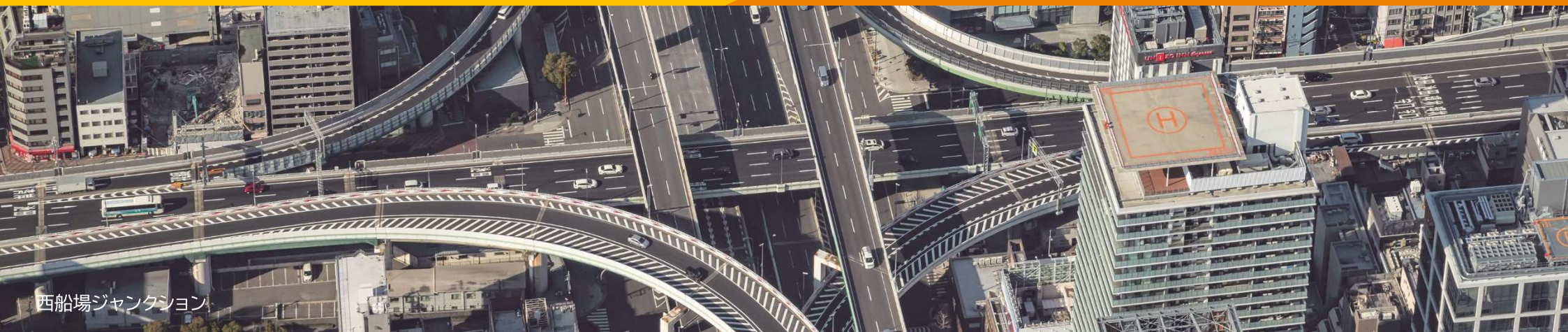
ありたい姿5

ありたい姿6

大阪・関西万博



## 2. もっと便利で快適なドライブライフを実現する阪神高速



西船場ジャンクション

# 2. もっと便利で快適なドライブを実現する阪神高速

## (1) ネットワーク整備の推進



ミッシングリンクを解消し、関西の個性的で多様な都市をインクルーシブ(包摂的)につなぐネットワークの整備を推進します。

### ① 淀川左岸線 (2期・延伸部) の事業推進

大阪都市再生環状道路(※)の完成に向けて、淀川左岸線(2期)(4.4km)及び淀川左岸線延伸部(7.6km)を共同事業者とともに着実に事業推進していきます。

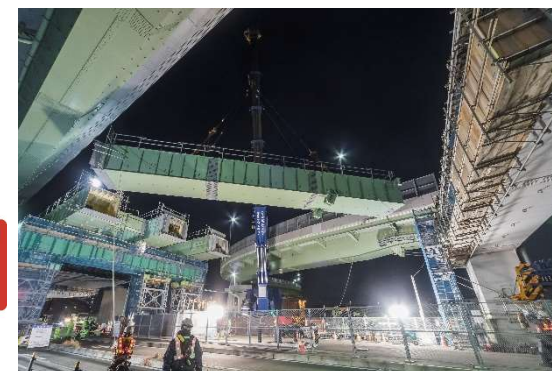
#### 淀川左岸線 (2期)

新大阪駅、大阪駅等の大阪中心部から大阪・関西万博会場へのシャトルバスのアクセスルートとして暫定利用するため、着実な工事進捗を図ります。

#### 淀川左岸線延伸部

大深度となるシールドトンネルや河川堤防と一体構造となる開削トンネルにおいて、高度な技術力と豊富な専門知識が必要となる技術的課題を解決するとともに、工事着手に向けて設計・施工方法を策定します。

※大阪都心部の慢性的な渋滞の緩和や沿道環境の改善により新たな都市拠点を形成し、都市構造の再編、大阪圏の都市機能再生を実現することを目的とする環状道路

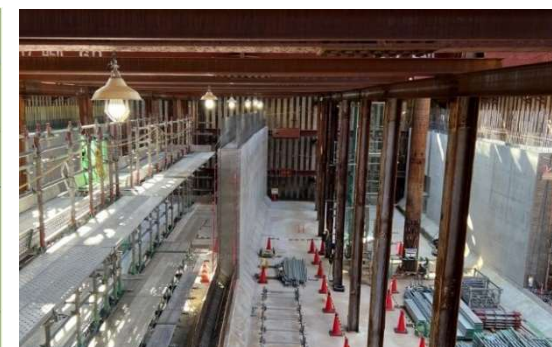


淀川左岸線(2期) 海老江地区 橋梁架設工

### ② 大阪湾岸道路西伸部の事業推進

阪神臨海地域における渋滞等の交通課題の緩和や阪神港の機能強化による物流効率化等を目的として、大阪湾岸道路西伸部(14.5km)を共同事業者とともに着実に事業推進していきます。

海上部では長大斜張橋の架設計画を含む詳細設計を実施するとともに、陸上部では高架橋及び開削トンネルの着実な工事進捗を図ります。



大阪湾岸道路西伸部 駒栄地区 トンネル函体工

ありたい姿1

ありたい姿2

ありたい姿3

ありたい姿4

ありたい姿5

ありたい姿6

大阪・関西万博

# 2. もっと便利で快適なドライブを実現する阪神高速

## (2)新しい技術を活用した渋滞対策の推進

渋滞のない高速道路をめざし、新たな技術を活用し交通運用対策の高度化や規制工事の影響軽減に取り組みます。  
 渋滞の減少が、お客さまの快適性の向上や、カーボンニュートラル実現に向けた温室効果ガス低減につながります。

数値目標

渋滞損失時間



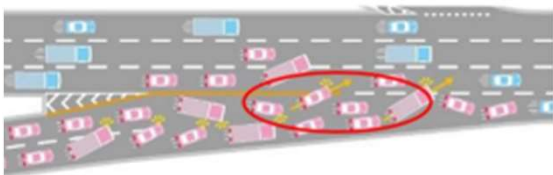
2022年度実績見込値： **1,020万台・時**

2025年度目標値： **870万台・時**



### ①渋滞多発箇所における渋滞対策のさらなる高度化

- 合流部やサグ部(※)における速度低下による渋滞への対策として、車線運用の改善、速度回復誘導灯の点灯パターンのAIを用いた最適化等の対策を実施します。  
 ※下り坂から上り坂へと変化するような凹型の構造を持つ場所。



JCT 合流部での区画線の改良

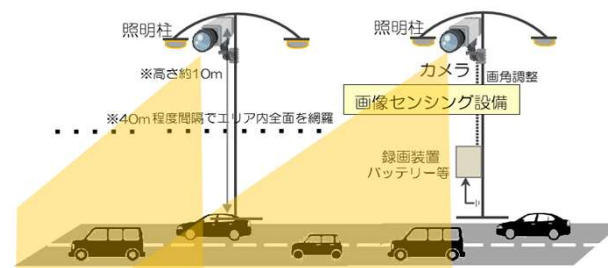


速度回復誘導灯 ～3号神戸線(東行)深江サグ部付近～



速度回復誘導灯(イメージ)

- カメラで取得した映像から生成した車両軌跡データ(Zen Traffic Data)を利用し、渋滞のメカニズムを分析、これを活用した効果的な情報提供により、渋滞の発生を抑えます。また、車線拡幅等、抜本的な対策に向けた調査等を継続します。
- 大阪・関西万博開催時の交通量の増加を見据えて、ボトルネック区間(湾岸舞洲出口、天保山JCT)の2車線化による交通容量の拡大を図ります。



カメラによる本線映像の取得(イメージ)

### ②工事や交通障害対応による交通影響の軽減

- 工事の集約や工事期間の短縮による通行止めや車線規制の抑制、低騒音工法の採用による交通影響の少ない夜間での工事実施等、交通影響の軽減に努めます。また、社会的影響の大きい工事の実施にあたっては、お客さまが快適に走行していただけるように、webサイトにおいて、手軽に走行経路を検索できる機能等、お客さまが必要な情報をきめ細かく提供します。
- 事故や故障車等の交通障害への対応時間の短縮に努めます。

ありたい姿1

ありたい姿2

ありたい姿3

ありたい姿4

ありたい姿5

ありたい姿6

大阪・関西万博

# 2. もっと便利で快適なドライブライフを実現する阪神高速

## (3) ETC専用化の推進

料金所のキャッシュレス化・タッチレス化による利便性の向上をめざしてETC専用料金所を順次拡大します。  
また、ETC専用化を推進するため、ETC車載器購入助成キャンペーンを実施します。

**数値目標** ETC専用料金所

2022年度実績値： **13カ所**

2025年度目標値： **110カ所程度**

※全料金所の8割程度  
※導入後の運用状況、ETCの普及状況、関係機関との協議等により、適時変更の可能性有り

### ① ETC専用料金所の拡大

2022年度に阪神高速の13カ所の料金所をETC専用料金所として運用を開始しました。  
今後、料金所のキャッシュレス化・タッチレス化を推進するため、ETCの普及状況や運用状況を踏まえ順次拡大に取り組みます。

### ② ETC専用化を円滑に推進するためのお客さまへの周知と利用しやすい環境づくり

- お客さまへの事前の周知、現地での案内により認知度を高め、安全で快適な料金所運営を推進します。
- ETCでご利用時にお客さまのスマートフォンに速やかに通過情報を通知するなど、お客さまのニーズを踏まえたさらなるサービス向上に取り組みます。
- 快適なETC走行のためETCカード未挿入お知らせアンテナの整備を進めます。
- 料金所のキャッシュレス化・タッチレス化を推進し、現金車のETCへの利用転換を促進するためにETC車載器購入助成キャンペーンを実施します。



早期の周知・広報(阪神高速HP)



現在運用中ETC専用料金所の案内



ETC車載器購入助成キャンペーンチラシ

ありたい姿1  
ありたい姿2  
ありたい姿3  
ありたい姿4  
ありたい姿5  
ありたい姿6  
大阪・関西万博





## 2. もっと便利で快適なドライブライフを実現する阪神高速

### (5) パーキングエリアの快適性・利便性の向上

お客さまがドライブの途中に気軽に立ち寄られてほっと一息ついていただけるよう、大阪・関西万博も見据えて機能的で魅力ある質の高いパーキングサービスを実施します。



数値目標

各PAの提供サービス

2022年度実績値: 4.0

2025年度目標値: 4.3

※お客さま満足度・5段階評価



#### ① お客さまが気軽にご利用いただける、魅力あるパーキングサービスの提供

- すべてのお客さまに使いやすい機能的なパーキングエリアを実感していただくため、ピクトグラムや多言語表記等ご案内の充実を図るとともに、さらなるバリアフリー化を推進します。



お客さまのニーズに添ったわかりやすいご案内

- テナント事業者と連携して把握したお客さまのニーズを踏まえたメニューの工夫や、国内外のお客さまにもわかりやすくご利用いただきやすい魅力ある店舗づくりを進めます。



レストラン(京橋PA・東行)



フェア案内のチラシ

- わかりやすく使いやすい路外パーキングサービスを実施するとともに、路外の電気自動車用充電施設等と連携したサービスの拡充も進めていきます。



- 沿線地域との連携を拡充し、パーキングエリアから地域の魅力を発信していきます。また、無人パーキングエリアにおいて、遠隔による案内等質の高いサービスを実施します。



沿線地域の魅力ある情報発信(イメージ)



PA施設を利用した自治体イベント

遠隔対応による案内サービス(イメージ)



ありたい姿1

ありたい姿2

ありたい姿3

ありたい姿4

ありたい姿5

ありたい姿6

大阪・関西万博



### 3. 世界水準の卓越した都市高速道路技術で発展する阪神高速

サイバーインフラマネジメント〈サイバー(仮想)空間の阪神高速道路3次元モデル〉

# 3. 世界水準の卓越した都市高速道路技術で発展する阪神高速

## (1)大規模プロジェクト等のハード技術の開発



新たな技術を活用することで、ネットワーク整備・リニューアルプロジェクトにおいて高品質で効率的な高速道路マネジメントをめざすとともに、技術力の発展・蓄積を図ります。

### ①長大斜張橋の建設

- 大阪湾岸道路西伸部の建設において、みなと神戸の新たなランドマークとなることが期待される長大斜張橋の耐震・耐風・景観・基礎等多くの技術課題にチャレンジし続けます。
- 新たな材料や構造等のほか、将来の効率的な維持管理も見据えた先進的な技術の適用をめざします。



大阪湾岸道路西伸部

### ③大規模更新工事の社会的影響の最小化

橋梁全体の架け替えや床版の取り換え等の大規模更新工事における交通渋滞等の社会的影響を最小化するため、急速施工技術の開発を推進します。

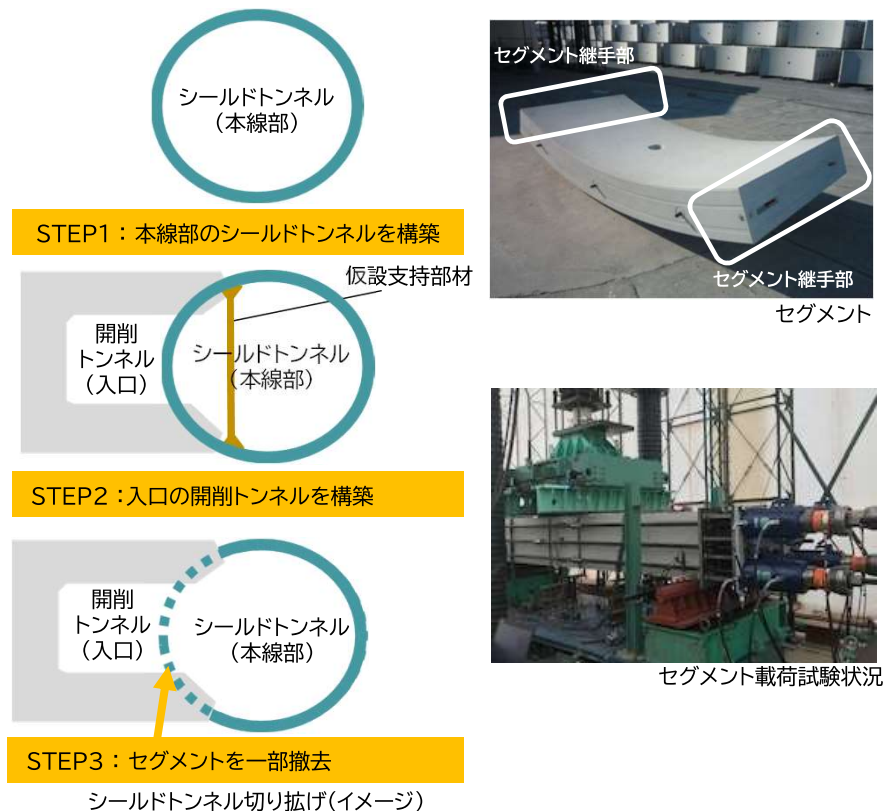


実物大試験体

床版厚を抑え、急速施工を可能とする継手構造を備えたプレキャスト床版

### ②大深度シールドトンネルの建設

- 淀川左岸線延伸部の大深度部への適用に向け、経済性に優れたセグメント継手構造(\*)の技術開発を推進します。
- 浅深度区間のシールドトンネル(本線部)に開削トンネル(入口)を接続するためのシールドトンネル切り拡げ方法を確立します。  
※シールドトンネル壁面を構成する、多数に分割された部材を「セグメント」、セグメント同士をつなぎ合わせる部分を「継手(つぎて)」という。



ありたい姿1

ありたい姿2

ありたい姿3

ありたい姿4

ありたい姿5

ありたい姿6

大阪・関西万博

# 3. 世界水準の卓越した都市高速道路技術で発展する阪神高速

## (2) シームレスで高度なインフラマネジメントの推進



デジタル技術を活用し、道路のライフサイクル全般にわたるシームレスなインフラマネジメントを推進します。また、デジタルツインモデル(※1)の精緻化を推進し、劣化予測や地震時予測等により、ストックマネジメント(※2)やリスクマネジメントを高度化し、安全性向上、価値創造に挑戦します。

※1 リアル(物理)空間にある情報を集め、サイバー(仮想)空間においてそのリアル空間を再現したモデル。

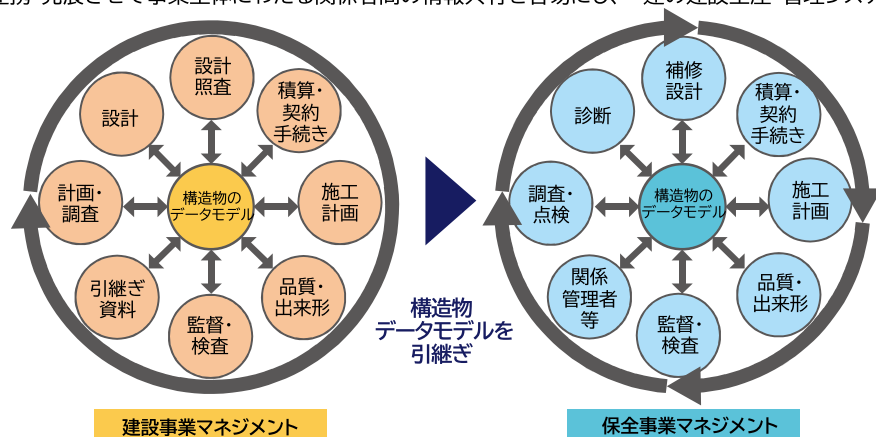
※2 長期的な視点で構造物全体の今後の老朽化の進展状況を考慮し、優先順位付けのうえ、点検・調査、修繕・改善を実施し、構造物管理を最適化すること。

### ① BIM/CIM(※)等の活用によるプラットフォームの構築推進

シームレスなインフラマネジメントを推進するため、建設・保全事業におけるBIM/CIM等の3次元データ化の推進や、これらデータの取得・蓄積を一元化するプラットフォームを構築するとともに、情報システム群との連携を推進し、さらに高度なデータ活用をめざします。

また、データ融合、予測技術を具備するサイバーインフラマネジメントをめざして、道路インフラを再現するデジタルツインモデルの精緻化を推進します。

※Building/Construction Information Modeling, Managementの略で、計画、調査、設計段階から3次元モデルを導入することにより、その後の施工、維持管理の各段階においても3次元モデルを連携・発展させて事業全体にわたる関係者間の情報共有を容易にし、一連の建設生産・管理システムの効率化・高度化を図ることを目的とするもの。



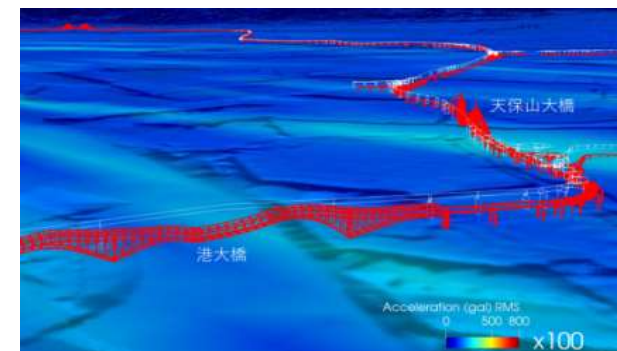
橋梁デジタルツイン (大規模構造解析モデル)

長大橋デジタルツインモデル

### ② 新しい付加価値の創造に向けたインフラマネジメントの高度化推進

プラットフォームを活用し、地震時の構造物の挙動予測シミュレーション精度を向上させ、防災・減災対策のさらなる高度化を図ります。

また、交通技術、電気通信技術、ICT等のソフト的な要素技術を融合させた予測技術の開発を進めることでインフラマネジメントの高度化を推進します。



ネットワークの地震シミュレーション(イメージ)

ありたい姿1

ありたい姿2

ありたい姿3

ありたい姿4

ありたい姿5

ありたい姿6

大阪・関西万博

# 3. 世界水準の卓越した都市高速道路技術で発展する阪神高速

## (3) 将来を見据えた新たな技術の開発

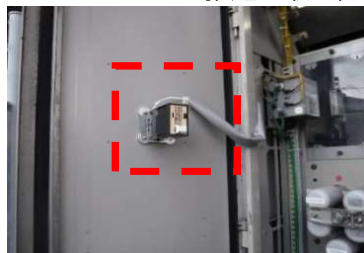


新たな技術を活用することで、高品質で効率的な維持管理をめざします。  
また、将来を見据えて脱炭素化に向けた研究を進めます。

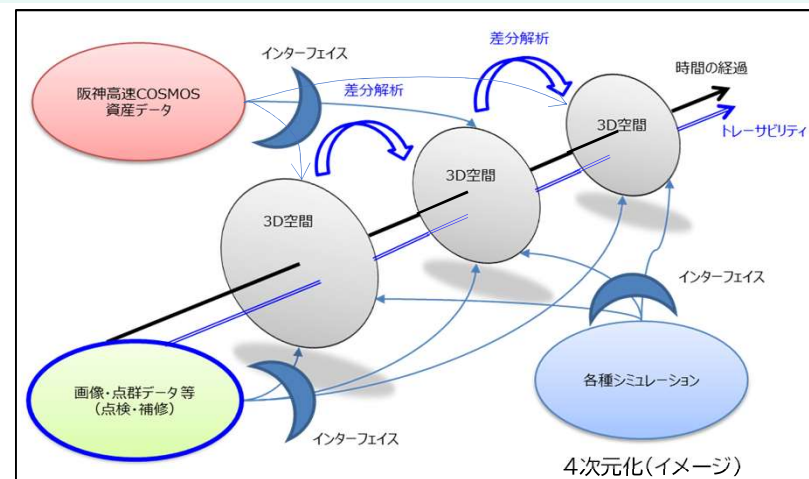
### ① 維持管理の高度化の推進

ICT・AI等の活用、工事期間を短縮できる工法等を採用し、維持管理の高度化をめざします。  
また、GIS(※)を基盤とする情報システム群『阪神高速COSMOS』との連携を念頭に、『阪神高速の橋梁マネジメントシステム(H-BMS)』の4次元化(最新技術+時間軸)等により、点検や維持管理の高度化・効率化及びシームレスなインフラマネジメントの推進に取り組みます。

※Geographic Information Systemの略で、地理的位置を手がかりに、位置に関する情報を持ったデータ(空間データ)を総合的に管理・加工し、視覚的に表示し、高度な分析や迅速な判断を可能にする技術



AI技術を活用した電力ケーブルの障害予兆検知検討(変電塔に各種センサーを設置し、収集したデータを使用)



### ② 脱炭素化に向けた研究・技術開発の推進

- 脱炭素化に向けた電気自動車の普及促進に資する取組として、道路を走行する電気自動車への無線給電技術について、関係事業者との共同研究に取り組みます。

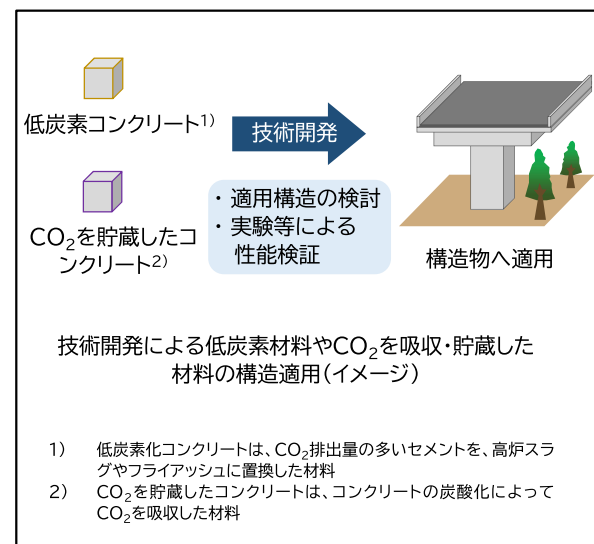
(イメージ)



出典:「2040年、道路の景色が変わる」(国土交通省)

- 再生可能エネルギーによる発電・活用、施工時等のエネルギー効率を向上する技術開発にチャレンジします。
- 低炭素材料や、CO<sub>2</sub>を吸収・貯蔵した材料を構造物へ適用するための技術開発を推進します。
- 構造物の耐久性の向上、修繕や更新による長寿命化に関する技術開発によって、ライフサイクルにおける低炭素化をめざします。

※構造物の長寿命化については、P7に記載



- 1) 低炭素化コンクリートは、CO<sub>2</sub>排出量の多いセメントを、高炉スラグやフライアッシュに置換した材料
- 2) CO<sub>2</sub>を貯蔵したコンクリートは、コンクリートの炭酸化によってCO<sub>2</sub>を吸収した材料

ありたい姿1

ありたい姿2

ありたい姿3

ありたい姿4

ありたい姿5

ありたい姿6

大阪・関西万博

# 3. 世界水準の卓越した都市高速道路技術で発展する阪神高速

## (4) パーソナライズされた安全・安心・快適なモビリティサービスの実現

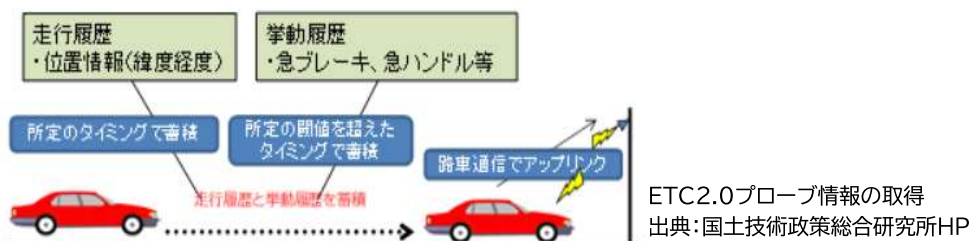


先進のICT、センシング等デジタル技術の活用により、お客さまのニーズや時代の変化に応え、パーソナライズされた安全・安心・快適なモビリティサービスの提供をめざした技術開発に取り組みます。

### ①さらなる事故削減に向けた交通分析の高度化

ETC2.0プローブデータ(\*)を活用した走行車線判定技術を確立し、詳細な車両の位置・速度のデータを取得することで、交通事故時の車両の挙動分析をより高度化し、さらなる交通事故削減を図ります。

※ETC2.0車載器及びETC2.0対応カーナビに記録された走行位置の履歴等の情報で、道路管理者が管理するITSスポットと無線通信を行うことにより収集される情報。



### ②自動運転に対応した交通運用技術の開発

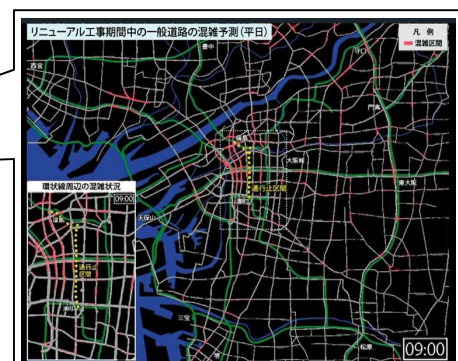
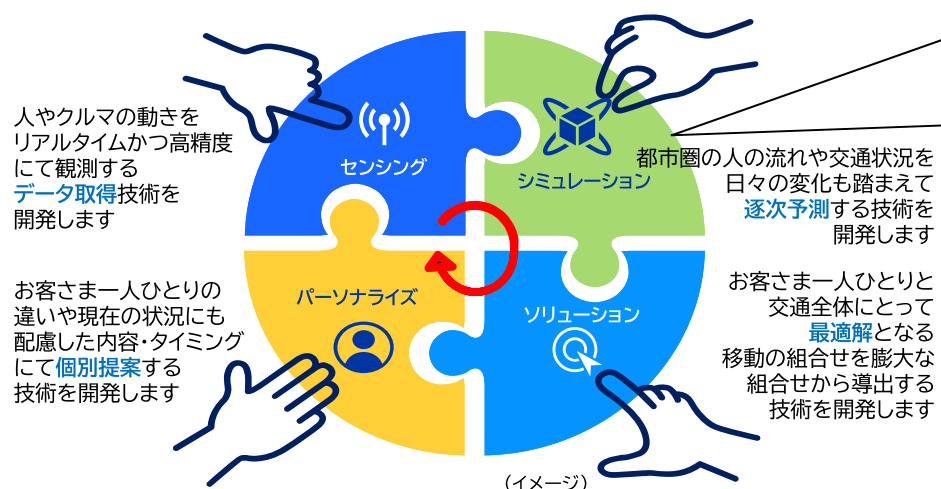
自動運転の社会実装に向け、関係機関と連携して、自車位置特定や合流支援、先読み情報提供(\*)等の技術開発を推進します。  
大阪・関西万博の機会に、シャトルバスアクセスルートにおいて、関係機関とともに運行事業者が行う自動運転車の走行実装に協力します。  
※走行時において、前方の情報を提供すること。



### ③都市型MaaSの実現に貢献する技術開発

阪神高速は、都市部におけるMaaS(\*)の実現に向け、センシングにより取得したさまざまなデータから、シミュレーションにより人の流れや交通状況を予測し、お客さまの多様性に対応しつつ渋滞等の緩和にもつながる最適な移動の組合せを導出し、お客さま一人ひとりに応じた内容を提案する技術の開発を推進します。

※Mobility as a Serviceの略で、複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせて検索・予約・決済等を一括で行うサービス。



# 3. 世界水準の卓越した都市高速道路技術で発展する阪神高速

## (5) 卓越した技術力・ノウハウの強化



技術者の育成ならびに知的財産権等の組織資産、関係資産からなる知的資産を強化し、持続的なイノベーションを実現する組織力の向上を図ります。

### ① 優れた技術者の育成

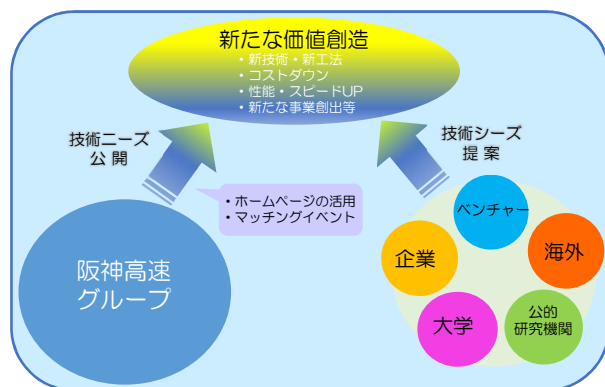
他機関への出向や国際活動を含むOJT、職場を離れてのOFF-JT、自己啓発、「気づき」や「やる気」の醸成等を通じて、プロフェッショナル人材を育成し、技術力の強化を図ります。



「気づき」や「やる気」の醸成事例：技術戦略セミナー

### ③ 産官学連携の強化

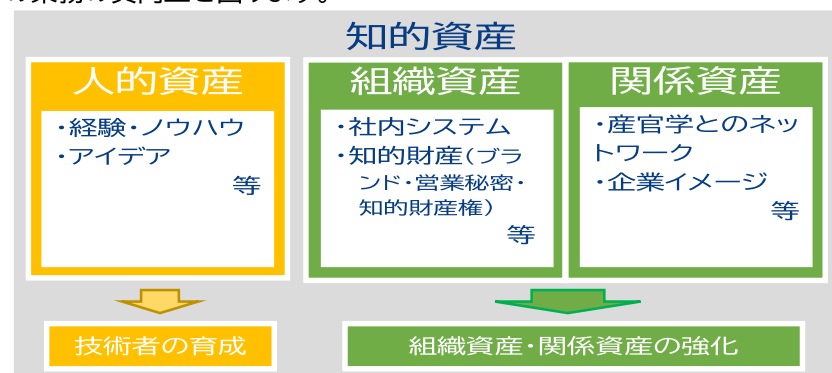
課題解決や新たな価値の創造のために、産官学連携により研究・技術開発をさらに推進するとともに、コミュニケーション型共同研究等開発の効率化とスピードアップ化に有効なオープン・イノベーションを積極的に活用します。



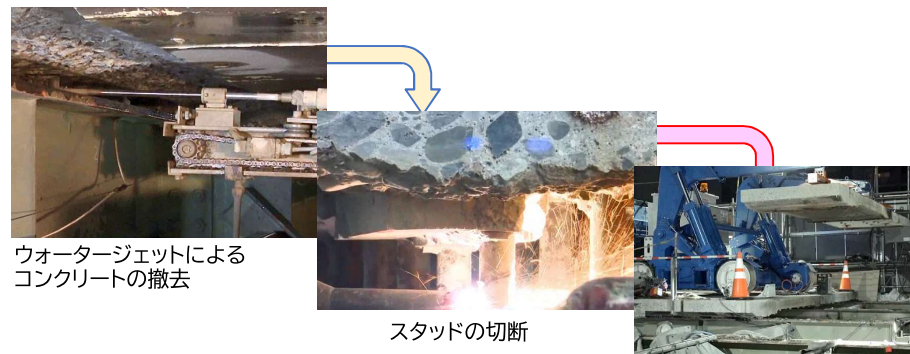
オープンイノベーションによる新たな価値創造のイメージ

### ② 組織資産・関係資産の強化

特許権等の知的財産のみならず、技術、組織力、産官学とのネットワーク等の組織資産・関係資産の強化に取り組み、道路の建設・管理・運用に至る一連の業務の質向上を図ります。



知的資産の体系



ウォータージェットによる  
コンクリートの撤去

スタッドの切断

床版撤去

コミュニケーション型共同研究で生まれた技術  
(ウォータージェットによる合成桁橋の床版急速撤去技術)

ありたい姿1

ありたい姿2

ありたい姿3

ありたい姿4

ありたい姿5

ありたい姿6

大阪・関西万博



## 4. お客様や社会に満足をお届けする 多彩なビジネスを展開する阪神高速



泉大津パーキングエリア(海側)



# 4. お客さまや社会に満足をお届けする多彩なビジネスを展開する阪神高速

## (1) 関西の発展に向けた多彩な事業の展開



関連事業における一層の事業規模拡大を図り、さらなる収益の向上・拡大をめざすとともに、取り巻く環境の変化や広く関西のお客さまのニーズを捉えた多様なサービスを提供することで、関西の発展に貢献します。

数値目標	関連事業の営業収益(連結)	関連事業の営業利益率(連結)
	2022年度 実績見込値： <b>58億円</b>	2022年度 実績見込値： <b>14%</b>
	2025年度 目標値： <b>60億円</b>	2025年度 目標値： <b>14%</b>

### ① グループの技術・ノウハウの強みを活かした事業展開

- グループの強みである交通管理や施設管理のノウハウを活かして社会のニーズに応えるべく、地方公共団体が管理する道路の維持管理や橋梁等の点検及び補修設計について、これまで受注した業務を着実に実施するとともに、新たな受注をめざします。  
また、GISを活用した維持管理システム等ICTを活用した事業の展開を図ります。
- 公共事業用地取得のノウハウを活かし、公共事業者の人材育成と用地取得の支援により、関西のまちづくりに貢献します。



大阪港咲洲・夢咲トンネルの管理



地方公共団体が管理する橋梁の定期点検

### ② 新規事業も含めた積極的な事業展開

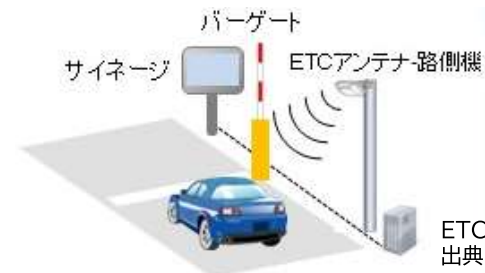
- 駐車場事業については、既存駐車場の収益性・利便性向上を図るとともに、占用入札や公募案件への参画により、事業規模を拡大します。
- 不動産事業については、保有資産の有効活用を継続するとともに新たな利活用策を検討し、事業の規模拡大及び収益性の向上を図ります。
- お客さまや社会の価値観、ニーズの変化に応え、ETC多目的利用等ICTを活用した新規事業の創出を図ります。



駐車場事業



不動産事業(賃貸住宅)



ETC多目的利用(イメージ)  
出典:国土交通省HP

ありたい姿1

ありたい姿2

ありたい姿3

ありたい姿4

ありたい姿5

ありたい姿6

大阪・関西万博

# 4. お客さまや社会に満足をお届けする多彩なビジネスを展開する阪神高速

## (2) 国際事業の推進

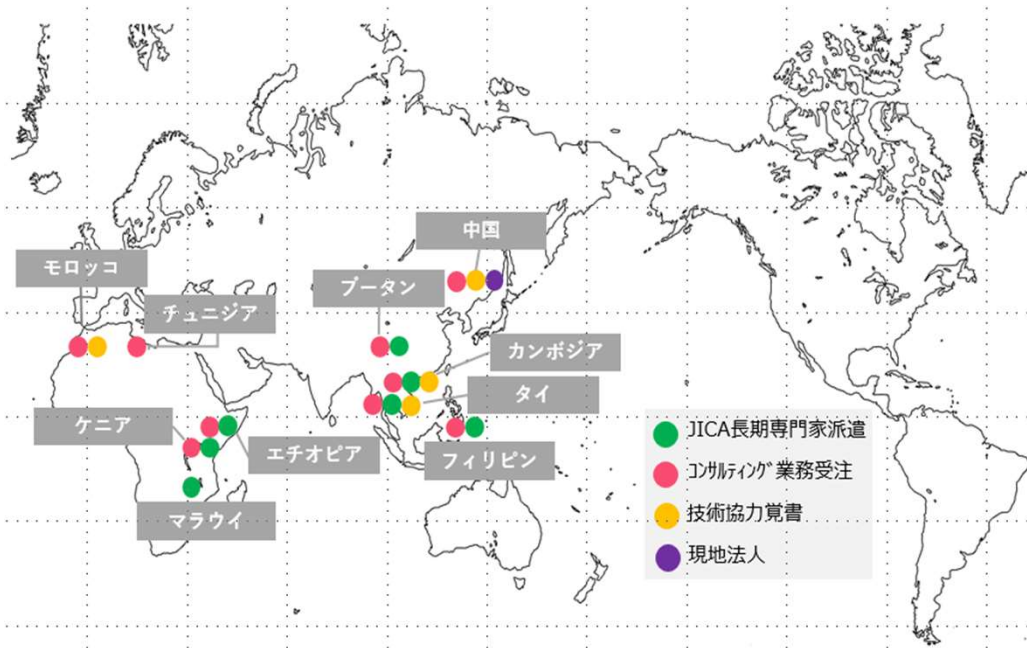


50年以上にわたる高速道路の建設・運営・管理に関する豊富な経験を活かした国際コンサルティング業務により、アジア・アフリカなど各国の社会課題解決に貢献し、高く評価されています。引き続き、将来も見据えた新たなビジネスモデルの確立等、国際プロジェクトの開拓及び参画を推進し、持続的な社会・経済発展に貢献します。

さらに、国際事業を通じて得た経験、育成された人材を国内事業へフィードバックし、新たな価値の創造をめざします。

### ① 国際コンサルティング事業の推進

遠隔対応カリキュラムの活用等をさらに充実させ、国際協力機構(JICA)、現地道路関係機関等からのコンサルティング業務に引き続き取り組みます。



【モロッコ】新たなビジネスモデルの検討



【モロッコ】Ninja-Techの点検技術者の育成



【ケニア】長年社員をJICAの長期専門家として派遣



海外オンライン研修(コンサルティング業務)

### ② 国際プロジェクトの開拓・展開

これまでの国際貢献活動の経験や保有する技術力・ノウハウを活かして、タイ・モロッコにおいて、道路維持管理業務を主とするビジネスモデルの確立をめざします。

- 業務実績の積み重ねによるブランド力、信頼度の向上
- 研修等の実施による阪神高速の保有するノウハウの形式知化(商品化)
- グループ全体での社員のグローバルマインド醸成

ありたい姿1

ありたい姿2

ありたい姿3

ありたい姿4

ありたい姿5

ありたい姿6

大阪・関西万博

## 5. 関西の発展に貢献し、 地域・社会から愛され信頼される阪神高速



尼崎の森中央緑地と5号湾岸線

# 5. 関西の発展に貢献し、地域・社会から愛され信頼される阪神高速

## (1) 社会経済活動の活性化や都市構造の強靱化

### ① 社会の根幹を支えるネットワークの整備 ※ネットワーク整備の具体的な内容はP12に記載

ミッシングリンクを解消し、関西の個性的で多様な都市をインクルーシブ(包摂的)につなぐ道路ネットワークを整備することにより、お客さまの利便性を向上し、関西経済の活性化を実現するとともに、道路ネットワークのリダンダンシー(冗長性)を確保し、事故・災害時の機能維持を図ります。引き続き、さらなるネットワーク機能の強化について検討します。



### ② 将来に向けた老朽化対策 ※老朽化対策の具体的な内容はP7に記載

新しいネットワークを活用しながら、新たな知見を踏まえた構造物のリニューアルプロジェクトを推進することで、100年先も安全・安心・快適にご利用いただけるサステナブルな道路ネットワークをめざします。

### ③ 災害時の地域のライフラインとしての機能確保 ※災害対応力強化の具体的な内容はP8に記載

災害発生時に緊急輸送道路として機能するレジリエントな阪神高速をめざします。

- ① 阪神高速道路の耐震性をさらに高めます
- ② 災害時の復元力を高める設備の整備を推進します
- ③ 通信ネットワークを強靱化します

# 5. 関西の発展に貢献し、地域・社会から愛される阪神高速

## (2) 環境経営推進・脱炭素社会への挑戦



2023年1月に改定した「阪神高速グループ 環境行動計画」に基づき、「脱炭素社会への挑戦」「循環型社会の形成」「環境啓発とコミュニケーション」「より良い都市環境の創造と共生」の4つの柱で環境経営を推進します。

なかでも、地球環境の保全における重要課題である気候変動対策において、2050年カーボンニュートラルの実現をゴールに定め、2030年度までに温室効果ガス総排出量の2013年度比50%削減をめざし、総合的・包括的な取組を推進します。

数値目標



道路照明のLED化によるCO<sub>2</sub>排出削減量

2022年度まで累計  
実績値: **901.9t-CO<sub>2</sub>**  
2023~2025年度合計  
目標値: **62.2t-CO<sub>2</sub>**

※2021年度の関西電力(株)調整後排出係数(0.311kg-CO<sub>2</sub>/kWh)を使用して算出

### ① 脱炭素社会への挑戦

カーボンニュートラル・脱炭素社会の実現に向けた環境施策の方向性を、以下の3つの視点で捉え、総合的・包括的な取組を推進します。

#### ■ より快適な高速道路サービスの提供(地域の自動車交通の円滑化)

阪神高速道路のネットワークの拡充・強化や、渋滞対策等による交通流の円滑化により、地域全体の自動車交通から排出される温室効果ガスのさらなる削減に取り組みます。

#### ■ 社会インフラ企業としての自主努力(事業活動における脱炭素化)

道路照明のLED化等により、電力使用量の削減をさらに進めるとともに、太陽光発電の導入拡大や再生可能エネルギーにより発電された電力の調達に取り組みます。また、新技術の活用等による構造物の長寿命化、他の事業者と連携した脱炭素化に寄与する建設機械の使用や建設資材・製品の調達、脱炭素の取組実績の工事発注における企業評価への導入に取り組みます。

#### ■ 地域や社会との共創(地域や関係事業者との協働)

電気自動車普及に資する急速充電器の整備に取り組み、走行車両から生じる温室効果ガスの低減、脱炭素化を図ります。また、道路を走行する電気自動車への無線給電技術について関係事業者との共同研究にも取り組みます。

### ② 循環型社会の形成

■ 阪神高速道路の建設、管理・運用の事業活動において、建設副産物を始めとする廃棄物の3R[Reduce(発生抑制)・Reuse(再使用)・Recycle(再生利用)]や、物品のグリーン調達に取り組みます。

■ パーキングエリアでは、廃棄物の分別回収や、レストラン・売店におけるフードロス削減へのご協力等を通じ、お客さまとともに廃棄物の削減に取り組みます。

### ③ 環境啓発とコミュニケーション

- 社員の環境に関する意識の向上と、環境に高い配慮ができる人材育成のため、社員への啓発活動を積極的に行います。
- 刊行物の発行、ホームページや環境イベント等を通じて環境情報を積極的に発信する等、地域社会や行政、他事業者等のステークホルダーとコミュニケーションを図ります。
- 地域の生物多様性保全に寄与する阪神高速グループの森づくりや、海洋環境保全に寄与するボランティア活動等について、継続的な実施と充実を図ります。

### ④ より良い都市環境の創造と共生

※「より良い都市環境の創造と共生」分野はP29に記載



LED道路照明(トンネル内)



パーキングエリアに設置の電気自動車用急速充電器



阪神高速グループの森づくり



砂浜清掃ボランティア活動

ありたい姿1

ありたい姿2

ありたい姿3

ありたい姿4

ありたい姿5

ありたい姿6

大阪・関西万博

# 5. 関西の発展に貢献し、地域・社会から愛され信頼される阪神高速

## (3) 地域との連携・地域社会の活性化



阪神高速と周辺地域との調和がとれた都市景観の形成や沿線自治体等と連携した施策、サステナブルな高速道路を訴求する機会を通じ、地域との連携と、地域社会の活性化を図ります。

### ① より良い都市環境の創造と共生

- 沿道環境の保全を図りつつ、構造物の景観面での配慮を行うことで阪神高速道路と周辺地域との調和をめざします。
- 環境施設帯等の沿道環境改善のための施設について今後も整備をすすめます。



御堂筋千日前(常設足場) (イメージ)

遮音壁

環境施設帯

### ③ 沿線自治体や施設との連携

パーキングエリアにおいて沿線自治体と連携したイベント開催や周辺観光地の情報提供により、大阪・関西万博気運醸成や地域のにぎわい創出に貢献します。また、沿線施設と連携し、路外パーキングサービスや乗り放題パス等のサービスを展開します。



沿線自治体と連携したイベントによる地元特産品の紹介や観光情報の提供

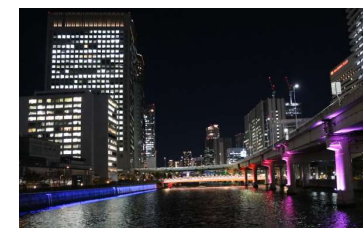
### ② 長大橋や中之島エリアにおける景観照明による演出

(CO2排出削減につながる環境にもやさしいLED照明を採用)

大阪・関西万博開催に向けた気運醸成や、地域と連携してより一層魅力的な夜間景観の形成に資するため、道路構造物のライトアップに取り組みます。



天保山大橋(イメージ)



中之島エリア

### ④ 阪神高速のめざす未来像の発信によるサステナブルな高速道路の訴求

時代とともに発展・成長を遂げてきた「水都大阪」の歴史や、河川空間を継承し地域とともに歩んできた阪神高速の「過去」を振り返りながら、「現在」の姿と自らも進化・成長する自己変革の先にある「未来」像をバーチャル技術(VR等)も活用して発信し、阪神高速の存在意義や魅力を知っていただく機会を創出します。



ありたい姿1

ありたい姿2

ありたい姿3

ありたい姿4

ありたい姿5

ありたい姿6

大阪・関西万博

# 5. 関西の発展に貢献し、地域・社会から愛され信頼される阪神高速

## (4) 社会貢献活動



社会を構成する一員として持続可能な社会の実現に貢献し、自らも持続的に進化・成長することを目的に、「安全・安心」「人づくり」「地域・社会の活性化」「環境」を重点テーマとして、社会貢献活動に取り組みます。

### ① 安全・安心

警察等と連携した落下物、逆走・誤進入の防止等の交通安全啓発活動や、交通事故ゼロをめざす「STOP!NAGARA DRIVING PROJECT」(通称SNDプロジェクト)等を推進します。



SNDプロジェクト

### ② 人づくり

社員が小学校に出向き総合学習活動を支援する出前講座や、震災経験を伝承するため、資料の展示や防災の取組を紹介する震災資料保管庫の公開、若手研究者の育成を支援するための助成等を推進します。



出前講座



震災資料保管庫特別公開

### ③ 地域・社会の活性化

※「地域・社会の活性化」分野はP29に記載

### ④ 環境

※「環境」分野はP28に記載

### あす 阪神高速 未来へのチャレンジプロジェクト

市民団体が阪神高速道路沿線で行う公益的な活動に対し、公募により助成を実施するもので、市民団体との協働により社会課題の解決を図り、地域・社会の持続的発展及びSDGs達成へ貢献していくことを目的としています。2021年度にスタートし、これまで「安全・安心なまちづくり」「持続可能な環境づくり」「次世代を担う人づくり」につながる16事業に助成を行いました。また、このプロジェクトをきっかけにした新たな連携も進めています。今後もこのプロジェクトを通じて、地域・社会の持続的発展に貢献できる活動を応援し、明るい未来の共創に努めていきます。



事業実施報告会

※重点テーマ①～④に関連するプロジェクト

ありたい姿1

ありたい姿2

ありたい姿3

ありたい姿4

ありたい姿5

ありたい姿6

大阪・関西万博



## 6. 経営基盤を確立し、 グループ社員がやりがいを実感できる阪神高速





# 6. 経営基盤を確立し、グループ社員がやりがいを実感できる阪神高速

## (1)ステークホルダーの声を反映した経営と信頼性の向上



すべてのステークホルダーの皆さまとのコミュニケーションを大切にし、地域・社会の発展に貢献するとともに、阪神高速自らも進化・成長していくことができるよう、健全で効率的な経営を行い、ステークホルダーから信頼される企業グループをめざします。



※お客様満足度：5段階評価

### ①さらなるお客様満足度の追求

阪神高速グループのすべての社員一人ひとりが、徹底したお客様目線を持って行動します。また、お客様一人ひとりの声に耳を傾けながら、変化お客様のニーズを捉え、グループ一丸となって対応していくことで、さらなるお客様満足度を実現します。



### ②積極的な広報展開

- 阪神高速の事業や取組について、適切な時期・内容・媒体等に留意して、ステークホルダーの皆さまに広くお知らせし、ご理解を深めていただけるよう広報を展開します。
- 統一感のある広報、社員のメディアへの露出機会を通して会社の方針をお伝えする「顔の見える広報」を展開し、企業価値・企業イメージのさらなる向上を図ります。また、SNS・キャラクター等の活用や各種イベント等への参加により、積極的な広報を展開していきます。



新聞広告



©A.M/F-27-2  
阪神高速道路 公式キャラクター  
もぐらのコージくんファミリー

### ③ステークホルダーとのコミュニケーション

阪神高速グループは、持続可能な社会の実現に貢献し、自らも持続的に進化・成長するため、ステークホルダーとの双方向のコミュニケーションの充実を図ります。



市民団体との協働による  
イベント風景



お客様満足度調査での  
グループインタビュー風景



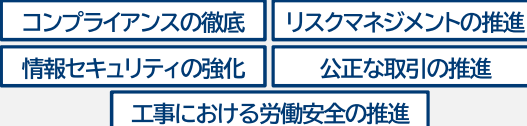
金融機関向け現場見学会風景

### ④グループの持続的な信頼性の向上

コーポレート・ガバナンスの充実等により経営の健全性、効率性及び透明性を確保し、グループ企業価値を持続的に向上させ、すべてのステークホルダーから愛され信頼される企業グループをめざします。

- コーポレートガバナンスの充実  
コンプライアンスの徹底、情報セキュリティの強化等により、コーポレート・ガバナンスの一層の充実に努めます。
- グループ企業価値の向上  
グループガバナンスの徹底とさらなるグループ意識の醸成により、グループ全体の品質の確保・向上と企業価値向上を図ります。

【コーポレート・ガバナンスの充実】



# 6. 経営基盤を確立し、グループ社員がやりがいを実感できる阪神高速

## (2)働きがいを実感できる働き方改革・ダイバーシティ&インクルージョンの推進



データとデジタル技術の利活用等による生産性の向上をより一層推進するとともに、社員が働きがいを感じ、一人ひとりの多様な能力を最大限に発揮していきいきと活躍できる職場環境を構築します。

数値目標

女性採用



2022年度実績値：2割

2025年度目標値：4割

男性の育休取得率



2022年度実績見込値：70%

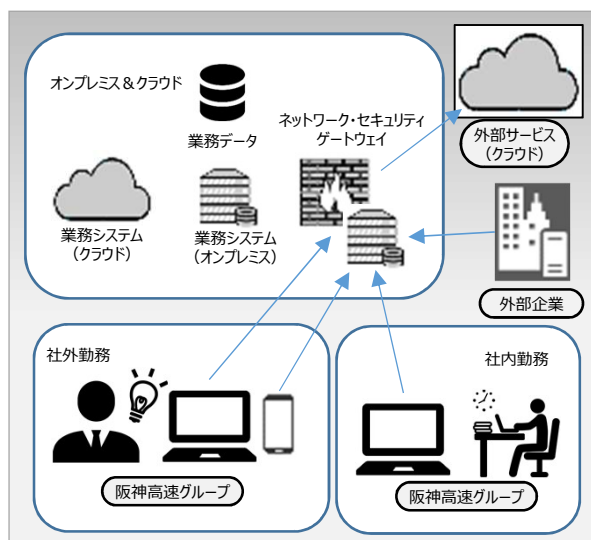
2025年度目標値：100%

### ①業務プロセスの改廃、デジタル化の推進

業務棚卸により、業務プロセスの可視化、見直しを行い、必要に応じてデータとデジタル技術を活用した定型業務の自動化を進めるとともに、社内外のニーズを踏まえ、Hi-TeLus(※)の改善を行い工事・業務のさらなる効率化を進めます。

また、データ蓄積及び利活用基盤を構築し、既設システム基盤との連携を考慮した情報プラットフォームの整備を進めます。

※阪神高速・工事情報等共有システム

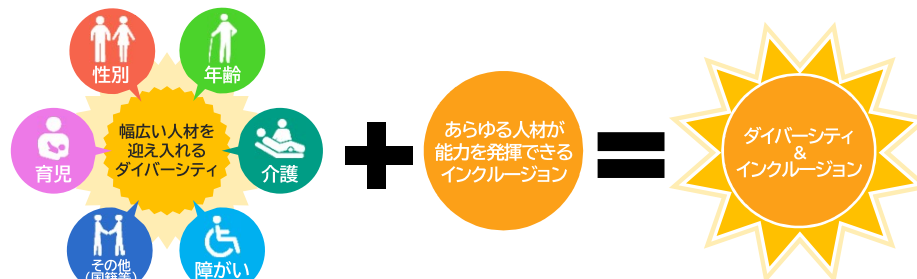


### ②ダイバーシティ&インクルージョン

性別・年齢・国籍・障がいの有無によらず、あらゆる人材を迎え入れるとともに、女性の採用・管理職への登用を積極的に行います。(※)

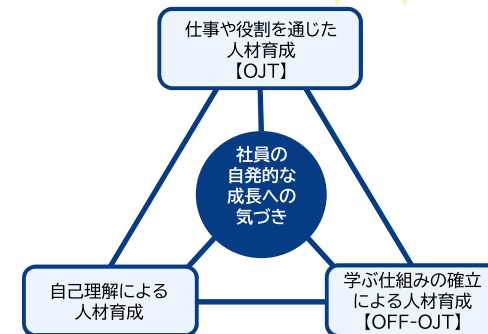
また出社と在宅勤務を併用する勤務制度の整備や多彩な休暇制度により、育児や介護を含む多様なライフスタイルに柔軟に対応することで、あらゆる人材がその能力を最大限発揮でき、やりがいを感じられる職場作りを推進します。

※女性活躍推進法に基づく行動計画期間内(2021年度～2025年度)に女性管理職を2020年度比4倍



### ③人的資本投資

社員それぞれのスキルや経験、キャリアパスを踏まえた成長への自発的な気づきを支援します。またDX人材の育成、専門的知識習得や自己啓発の支援、役職に捉われずチャレンジできる仕組みづくりを推進します。



人材育成

ありたい姿1

ありたい姿2

ありたい姿3

ありたい姿4

ありたい姿5

ありたい姿6

大阪・関西万博



## 大阪・関西万博に貢献し、未来社会を描く阪神高速



提供：2025年日本国際博覧会協会

阪神高速は、関西の暮らしや経済・社会活動を下支えするインフラ企業として、大阪・関西万博の成功と関西経済のさらなる発展に貢献します。

# 大阪・関西万博に貢献し、未来社会を描く阪神高速



## (1)交通円滑化への貢献

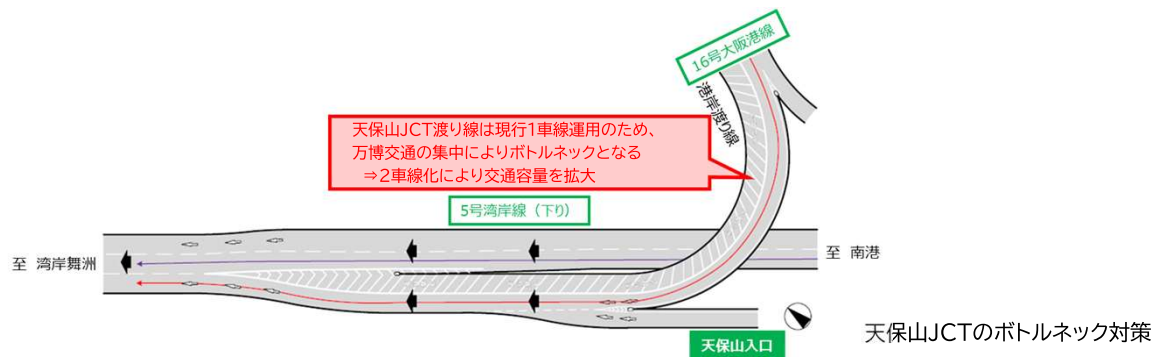
大阪・関西万博開催期間中の交通需要増加に対して、ソフト施策も含めたトラフィックマネジメントを実施することで、阪神高速の渋滞緩和や快適な走行、万博交通の輸送円滑化等に貢献します。

### ①シャトルバス運行に向けた淀川左岸線2期区間の整備

新大阪駅や大阪駅等から大阪・関西万博会場となる舞洲へのシャトルバスのアクセスルートとして暫定利用するため、淀川左岸線2期区間のルート確保を関係自治体と協力して取り組みます。

### ②大阪・関西万博期間中の交通需要増加への対応

ボトルネック区間(湾岸舞洲出口、天保山JCT)の2車線化による交通容量の拡大を図ります。



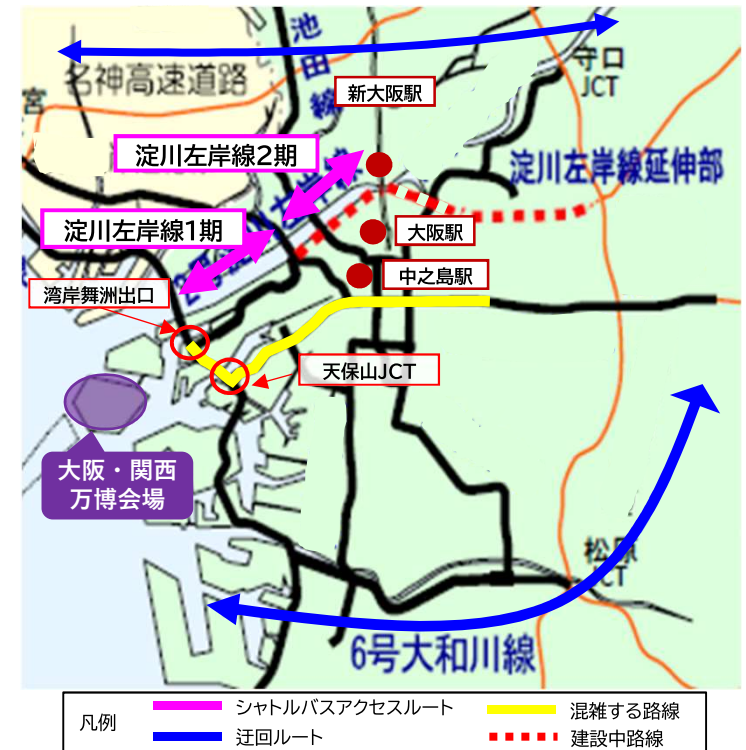
さらに、ビッグデータ等を活用した渋滞予測情報、即時的な所要時間や渋滞情報を提供するとともに、関係機関と連携しICTの活用等による取組を進めます。

### ③アクセスルートを気持ちよくご利用いただくためのリニューアル工事等の実施

大阪・関西万博期間中の主要アクセスルートとなる4号・5号湾岸線、16号大阪港線等において、万博会場へのわかりやすい案内表示や、舗装、区画線、遮音壁の補修等を実施します。



舗装等補修状況



ありたい姿1  
ありたい姿2  
ありたい姿3  
ありたい姿4  
ありたい姿5  
ありたい姿6  
大阪・関西万博

## (2)パーキングエリアでのインバウンド対応等のパーソナルサービス



大阪・関西万博を訪れる多くのお客さまにストレスなく阪神高速施設をご利用いただけるようサービスを展開します。海外からのお客さまへの多様なニーズに応えるきめ細かなサービスを提供します。

### ①大阪・関西を訪れるお客さまに向け、多様なニーズに応えるきめ細かなサービスの提供

コンシェルジュサービス、デジタルサイネージをはじめとしたさまざまなコンテンツでの多言語表示、ピクトグラムの充実等により、海外からのお客さまをはじめ、大阪・関西を訪れるお客さまに向けたわかりやすい案内を提供します。また、食事機会におけるお客さまの多様なニーズに応えるサービスを展開します。



開放的なコンシェルジュ室とインフォメーションを強調 (イメージ)



デジタルサイネージを設置した広報 (イメージ)



券売機近くに多言語で食事注文方法の案内板を設置



PAガイド(HP)で食事や万博関連グッズの案内 (イメージ)

### ②大阪・関西万博に向けた気運醸成や地域のにぎわい創出への貢献

パーキングエリアにおいて大阪・関西万博関連の情報提供や万博に関連する商品、地元特産品の提供、沿線自治体と連携したイベント開催や周辺観光地の情報提供により、万博気運醸成や地域のにぎわい創出に貢献します。



空きスペースを活用した記念フォトスポット (イメージ)



沿線自治体と連携したイベントにより地元特産品の紹介や観光情報の提供

ありたい姿1  
ありたい姿2  
ありたい姿3  
ありたい姿4  
ありたい姿5  
ありたい姿6  
大阪・関西万博

## (3)大阪・関西万博の気運醸成につながる地域のにぎわい創出



周辺地域と調和のとれた都市景観の形成等により大阪・関西万博の気運醸成や地域活性化に貢献します。

### ①長大橋や中之島エリアにおける景観照明による演出

(CO2排出削減につながる環境にもやさしいLED照明を採用)

#### I.天保山大橋ライトアップ【フルカラーLED照明】

天保山大橋の構造美を強調しながら外部情報・状況や人の操作・感情に応じ、フルカラーで演出を変化させることで、新しい価値を地域に提供します。



天保山大橋 ※イメージ



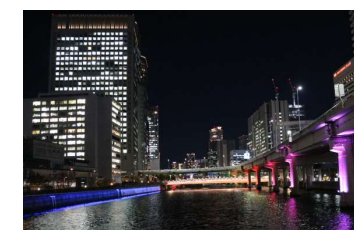
港大橋

#### II.港大橋・東神戸大橋ライトアップ【白色LED照明】

湾岸エリアのランドマークである港大橋・東神戸大橋の構造美を強調したライトアップにより、地域のにぎわい創出に貢献します。



東神戸大橋



中之島エリア

#### III.中之島エリアの橋脚ライトアップ【フルカラーLED照明】

水都大阪の中心地である中之島・堂島川地区において、阪神高速の橋脚をフルカラーLED照明を用いた機動的な色の変化等でライトアップする演出により、良好な夜間景観を形成します。また、同地区で実施する護岸(大阪府)や横断橋梁(大阪市)ライトアップとも協調・連携しながら、地域のにぎわい創出と活性化に貢献します。

### ②街や自然と調和のとれた道路構造物への修景による景観形成

大阪・関西万博会場周辺(北港JCT付近)や観光客が集まるスポット(千日前付近・中之島付近)を中心に、街や自然の美しさと調和のとれた道路構造物に修景し、長期にわたる良好な都市景観と道路空間の創造により地域活性化、万博気運醸成に貢献します。



御堂筋千日前(常設足場) ※イメージ



橋脚塗装状況

### ③阪神高速のめざす未来像の発信による持続可能な高速道路の訴求

時代とともに発展・成長を遂げてきた「水都大阪」の歴史や、河川空間を継承し地域とともに歩んできた阪神高速の「過去」を振り返りながら、「現在」の姿と自らも進化・成長する自己変革の先にある「未来」像をバーチャル技術(VR等)も活用して発信し、阪神高速の存在意義や魅力を知っていただく機会を創出します。



ありたい姿1

ありたい姿2

ありたい姿3

ありたい姿4

ありたい姿5

ありたい姿6

大阪・関西万博

## (4)新たなプロジェクトへのチャレンジによる価値の創造



大阪・関西万博を契機として、阪神高速の描く未来像、次世代モビリティサービスを見据えた新たな価値の創造につながるプロジェクトに取り組みます。

### ①都市型MaaSの実現に貢献する取組

阪神高速は、都市部におけるMaaSの実現に向け、センシングにより取得したさまざまなデータから、シミュレーションにより人の流れや交通状況を予測し、お客さまの多様性に対応しつつ渋滞等の緩和にもつながる最適な移動の組合せを導出し、お客さま一人ひとりに応じた内容を提案する技術の開発を推進します。また、自動車交通運用を通じて、他の交通手段や様々な沿道施設等と連携した快適な移動サービスの提供をめざします。大阪・関西万博開催の機会には、これらのICTを活用し、沿道のサービス事業者や地方自治体等と連携して、お客さま一人ひとりに役立つ取組を進めます。



(イメージ)

### ②都市高速道路における自動運転車の走行実装に向けた、運行事業者との調整、情報提供等の実施

今後の自動運転車の拡大、将来の完全自動運転化を見据え、大阪・関西万博会場へのシャトルバスアクセスルートにおいて、関係機関とともに、運行事業者が行う自動運転車の走行実装に対し、実装に関する調整を実施するほか、合流支援システムによる情報提供や磁気マーカー等の設置を通じて、協力します。



自動運転 合流支援技術  
出典:国土技術政策総合研究所HP

ありたい姿1

ありたい姿2

ありたい姿3

ありたい姿4

ありたい姿5

ありたい姿6

大阪・関西万博

# 【参考】阪神高速グループのサステナビリティへの基本姿勢について

阪神高速グループは、社会情勢の変化や社会の潮流を敏感に捉え、社会を構成する一員として「サステナビリティ」を共通の価値観と認識し、グループ理念のもと、持続可能な社会の実現に貢献し、持続的な企業価値の向上をめざすため、「サステナビリティ基本方針」及び「CSR活動指針」を策定しました。これらは、社会を構成する一員としてのサステナビリティへの基本姿勢を示すものであり、今後の経営の基盤となるものと考えています。

## ■サステナビリティ基本方針

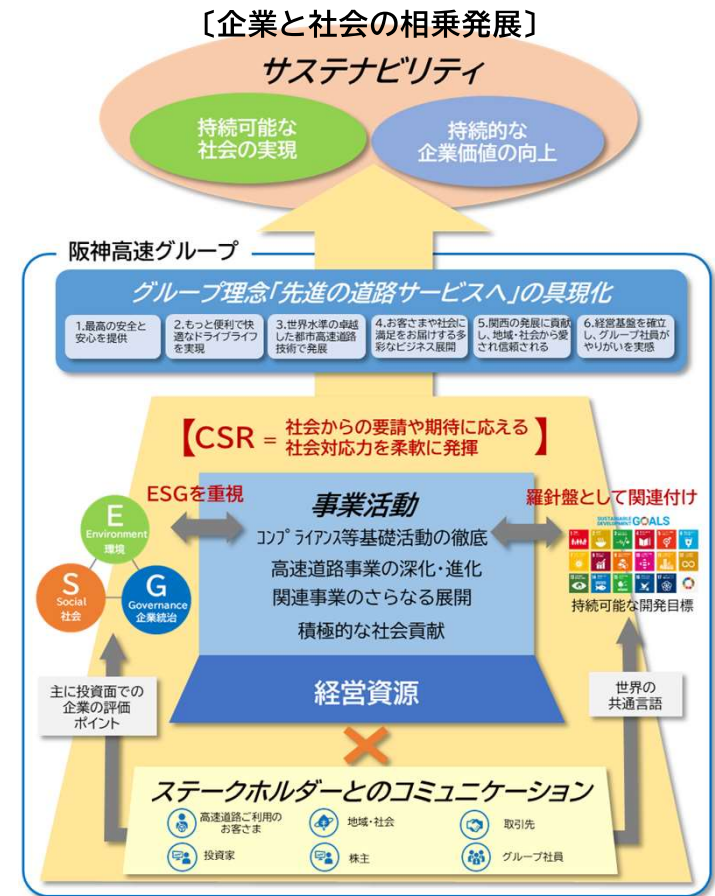
環境・社会課題がグローバルに拡大し、社会全体で課題を解決することが求められている現代社会において、阪神高速グループも社会を構成する一員として、「サステナビリティ」を共通の価値観と認識し、「私たちのCSR＝企業の基本的な責任にとどまらず、社会の要請や期待に対してグループ体となって柔軟に答えていくこと」を実践することで、一人ひとりが輝き、多様な豊かさにつながる持続可能な社会の実現に貢献し、自らも持続的に進化・成長することを目指します。

## ■CSR活動指針

阪神高速グループは、自社を取り巻く社会の要請や期待、変化を感性鋭く捉え、グループ体となって柔軟に答えていくために、すべてのステークホルダーの皆さまとコミュニケーションを図りながら、以下の3つの活動を推進します。活動にあたっては、SDGs（持続可能な開発目標）を羅針盤として関連付けるとともに、ESG（環境・社会・企業統治）を重視して取り組みます。

### 【3つの活動内容】

- 企業存続の基礎活動（コンプライアンス、リスクマネジメント、情報セキュリティ等）を徹底します
- 高速道路事業の深化・進化、関連事業のさらなる展開を図ります
- 経営資源（ヒト、モノ、ノウハウ等）を生かし、「安全・安心」「人づくり」「地域・社会の活性化」「環境」を重点テーマとした社会貢献活動を実施します



社会を構成する一員としてのサステナビリティへの基本姿勢



# 【参考】阪神高速グループのサステナビリティ重要課題について

阪神高速グループは、2030年にめざす6つのありたい姿を起点として、日頃のコミュニケーションから認識した要請や期待、さらには社会情勢の変化をESG視点で整理のうえ、サステナビリティの実現のために重要と考えられるテーマを洗い出し、サステナビリティ推進委員会での議論を経て「4つのサステナビリティ重要課題」として特定し、取締役会において報告しました。

ビジョン2030の  
6つのありたい姿

取り巻く社会の主な要請や期待、変化

サステナビリティ重要課題と中期経営計画(2023~2025)における主な取組



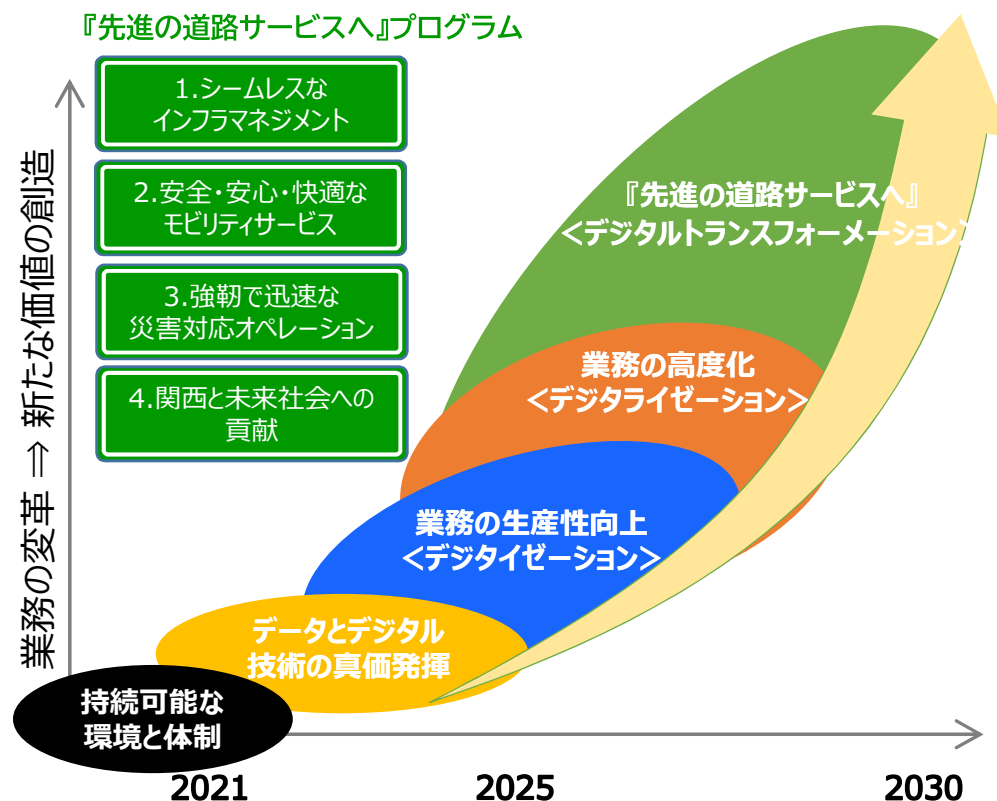
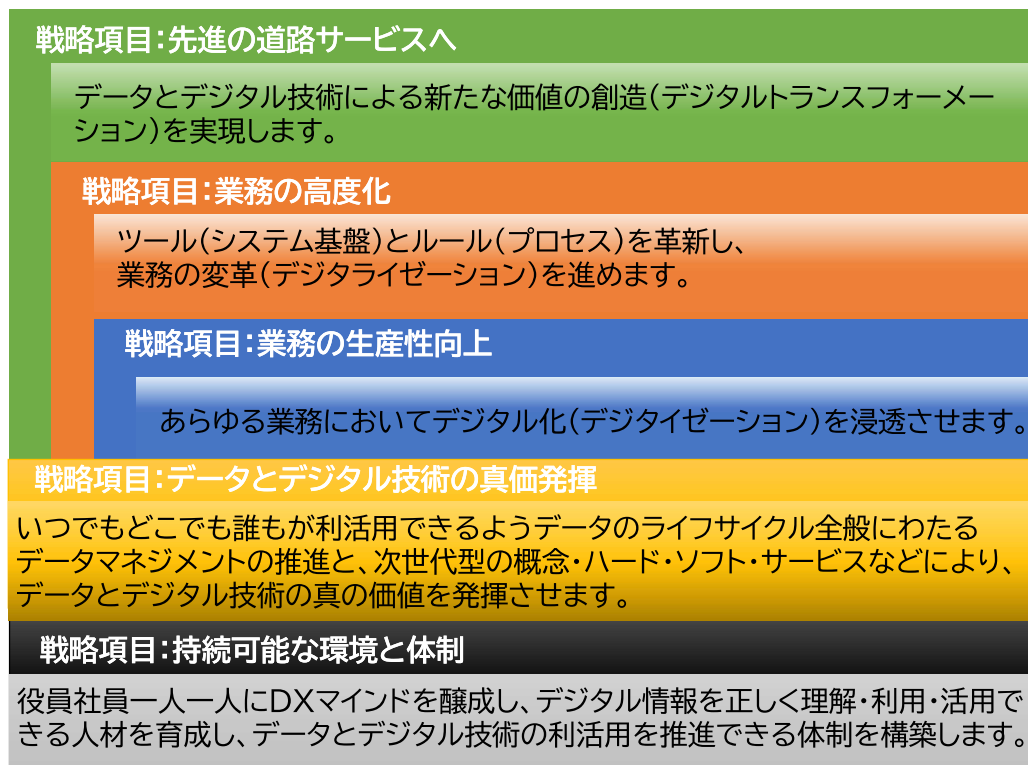
# 【参考】DX戦略の概要(2021.7策定)

## ■DXの理念

阪神高速グループは、データとデジタル技術の利活用を通じて、業務の増大・高度化や社会環境の大きな変化に対応しながら、次の時代に相応しい道路資産、サービス及び企業風土の構築を探求し、お客さまや現場を本位とした業務の変革や新たな価値の創造を実現します。

## ■DXの基本方針

DXの理念のもと、持続可能な環境と体制のもとで人材のマネジメントを確立しつつ、データとデジタル技術の真価を発揮させながら、あらゆる業務においてデジタル化を浸透させていくことで生産性を向上させ、ツール(システム基盤)とルール(プロセス)の革新により高度化を図り、「先進の道路サービスへ」を目指します。



# 【参考】技術戦略の概要(2021.4改定)

## ■背景

阪神高速を取り巻く内外の環境が大きく変化していく中、「先進の道路サービスへ」という『阪神高速グループ理念』のもと、阪神高速グループビジョンで示す「ありたい姿」を実現させるため、「将来の方向付け」を明らかにし、中長期的な視野に立った戦略的取組等を定めています。

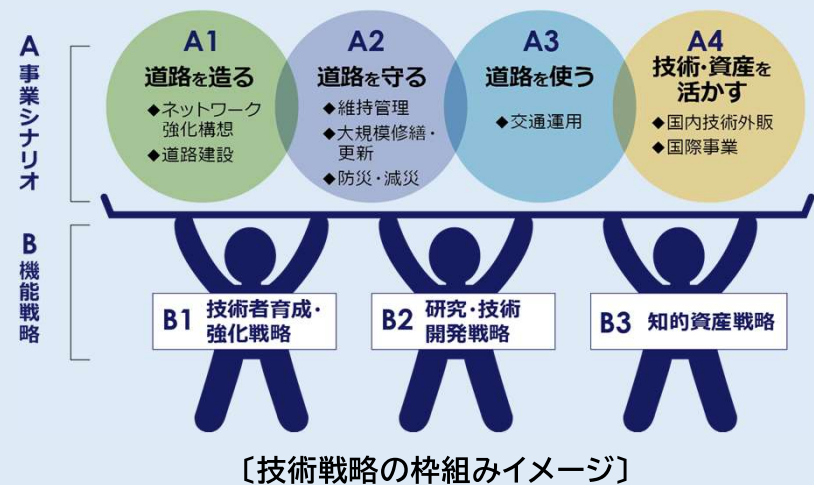
## ■目的

- ① ビジョンのありたい姿と現状とのギャップを埋め、ありたい姿の実現のため技術視点からの方法論・シナリオを示し、グループ各部門・各社員の日常行動の“道標(みちしるべ)”とすること
- ② 各施策・取組を効果的に展開するためのコミュニケーションツールとしてモチベーションアップ、能力向上に資すること
- ③ 重要な施策・取組、スケジュールを明らかにし、目標とする成果を「中期経営計画」に反映すること

## ■枠組み

阪神高速の技術戦略は、ビジョンのありたい姿を実現するための技術部門の全体的な戦略と位置付け、さらに、ビジョンや中期経営計画との関係性を明確にするため、これから展開する事業シナリオを含めた内容としています。

技術戦略の枠組みは、右図のように、事業シナリオと機能戦略からなり、事業シナリオは、「道路を造る」、「道路を守る」、「道路を使う」、「技術・資産を活かす」の4つの柱で構成し、それをサポートする機能戦略については、「技術者育成・強化戦略」、「研究・技術開発戦略」、「知的資産戦略」の3つの戦略で構成しています。



# 【参考】環境ポリシー・環境行動計画の概要(2023.1改定)

## ■背景

環境・社会課題がグローバルに拡大し、社会全体で解決することが求められているなか、当社グループも社会を構成する一員として、脱炭素社会に向けた世界の潮流、社会情勢や周辺環境の変化に対応するため、「サステナビリティ」を共通の価値観と認識し、社会の要請や期待にグループ一体となって柔軟に応え、持続可能な社会の実現に貢献し、自らも持続的に進化・成長することを目指して、特に世界の目標である「2050年カーボンニュートラル・脱炭素社会の実現」に重点を置き当社グループの各部門が積極的に環境行動を推進する環境を整えることが必要となりました。

## ■目的

「環境ポリシー」では、当社グループの各部門が、サステナビリティ経営のもと、なかでも地球環境保全の重要課題である気候変動対策を重視し、2050年のカーボンニュートラルの実現に向けて環境行動を積極的、継続的に推進するにあたっての「基本理念」と、具体的な環境施策を展開していくための「環境行動の方針」を分野別戦略として定めています。

「環境行動計画」は、この「環境ポリシー」をもとに、取り組むべき環境行動を体系的に取りまとめるとともに、目指すべきゴールを定め、PDCAサイクルにより具体的な施策の進捗を管理するツールとしての役割を有しています。

## ■枠組み

「環境ポリシー」は、2010年に策定した「環境大綱」をもとに2012年に「環境ポリシー」として再構築し、2023年1月に2回目の改定を行い、地球環境保全に対する「基本理念」と「環境行動の方針」で構成しています。「基本理念」では、温室効果ガスの抑制を始めとする地球環境の保全を重要な課題と認識し、阪神高速道路の建設、管理・運用を中心とする、当社グループの事業活動に伴う環境負荷の低減に努め、都市の環境や景観との調和を重視した健全な都市づくりに貢献する決意を示しています。「環境行動の方針」では、1.組織体制等:環境マネジメントの強化 2.事業活動:環境に配慮した設計・開発・調達・施工・管理・運用 3.コミュニケーション:環境行動に関する連携の推進と情報発信の充実の3項目に区分し、高速道路の計画から廃棄物の処理までを視野に入れた総合的な環境行動の推進姿勢を示しています。

これを受けて、「環境行動計画」では、世界の大きな潮流となった脱炭素化に重点を置き、持続可能な社会の実現に向けて具体的に取り組む環境行動を、「(1)脱炭素社会への挑戦」「(2)循環型社会の形成」「(3)より良い都市環境の創造と共生」「(4)環境啓発とコミュニケーション」の4つの柱に分類し、目指すべきゴールを定めています。このうち、「脱炭素社会への挑戦」については、「①より快適な高速道路サービスの提供(地域の自動車交通の円滑化)」「②社会インフラ企業としての自主努力(事業活動における脱炭素化)」「③地域や社会との共創(地域や関係事業者との協働)」の3つの視点で捉え、総合的・包括的な取組を推進することとしています。

〔イメージ図〕



※3つの視点

- ①より快適な高速道路サービスの提供(地域の自動車交通の円滑化)
- ②社会インフラ企業としての自主努力(事業活動における脱炭素化)
- ③地域や社会との共創(地域や関係事業者との協働)

# 阪神高速グループ

258.1kmのネットワークを有する関西都市圏の大動脈として、関西の暮らしと経済の発展を支える重要な役割を担う阪神高速道路。  
 阪神高速道路(株)は、高速道路の「安全・安心・快適」に密接に関わる保全点検、維持修繕、交通管理及び料金收受を中心に、専門的技術・知識を有する子会社と共に、グループ経営体制を構築しています。  
 そして「先進の道路サービスへ」を阪神高速グループ共通の基本理念として、グループ一丸となって連携を強化し、「安全・安心・快適」なネットワークをお客さまに提供していきます。





- ◆ 2023年4月発行
- ◆ 掲載内容は、特に指定のない限りは本中期経営計画の発行時点の情報です